

### 3 市民による個別事業評価

### 3 市民による個別事業評価

#### 3.1 個別事業評価

今年度の個別事業評価については、市民全体を対象に、3つの施策・事業に対する評価・意見を伺うこととし、「2 市民による市政評価」の調査票に合冊し、併せて実施した。

従って、調査対象、回答率、回答者の属性については、市民による市政評価の結果と同様である（p 4～7を参照）。

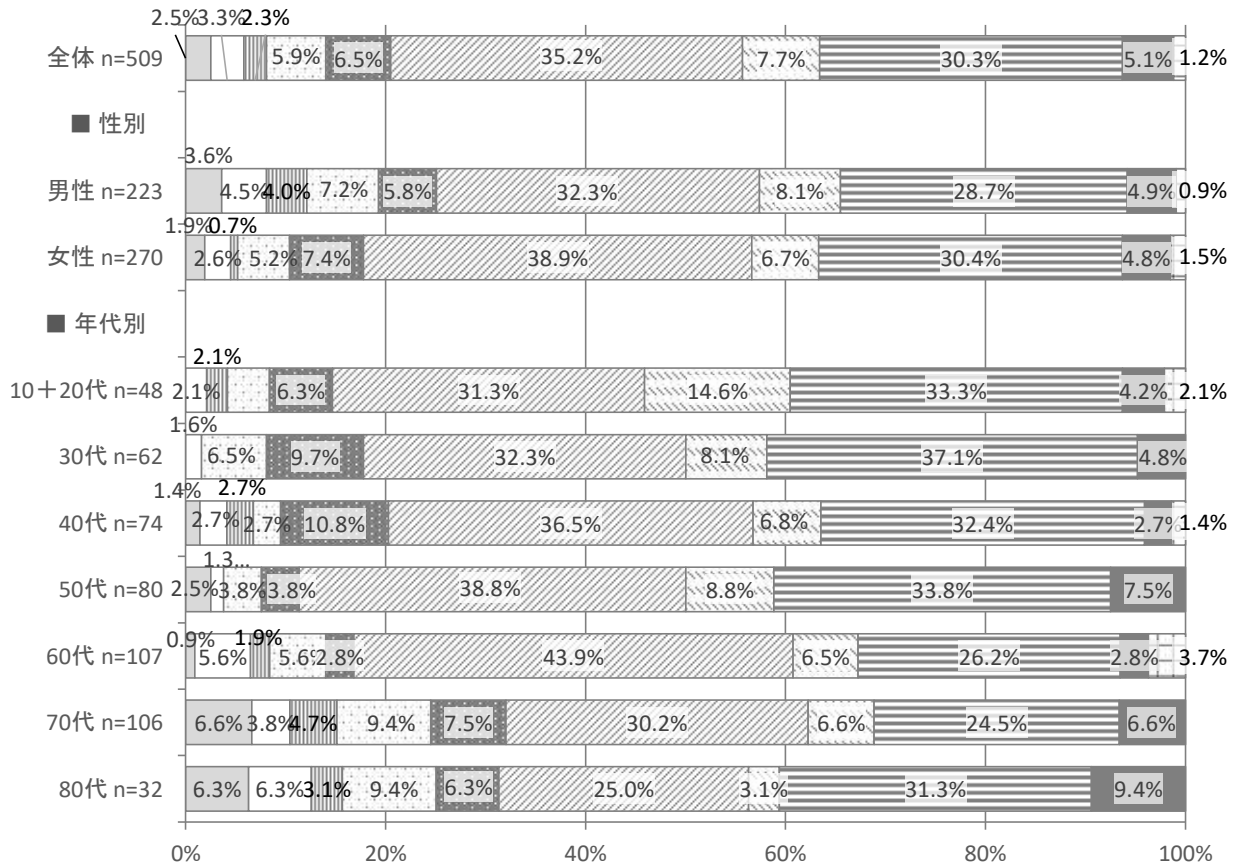
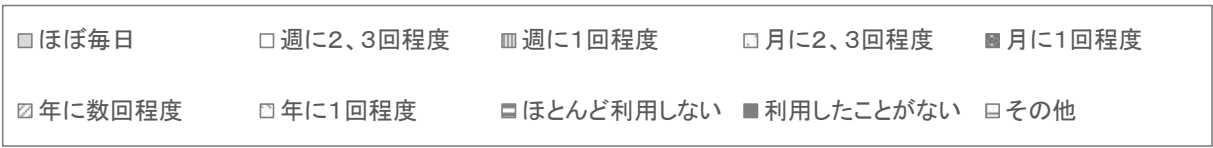
##### 3.1.1 市所有温泉施設について

（観光文化スポーツ部温泉施設対策室）

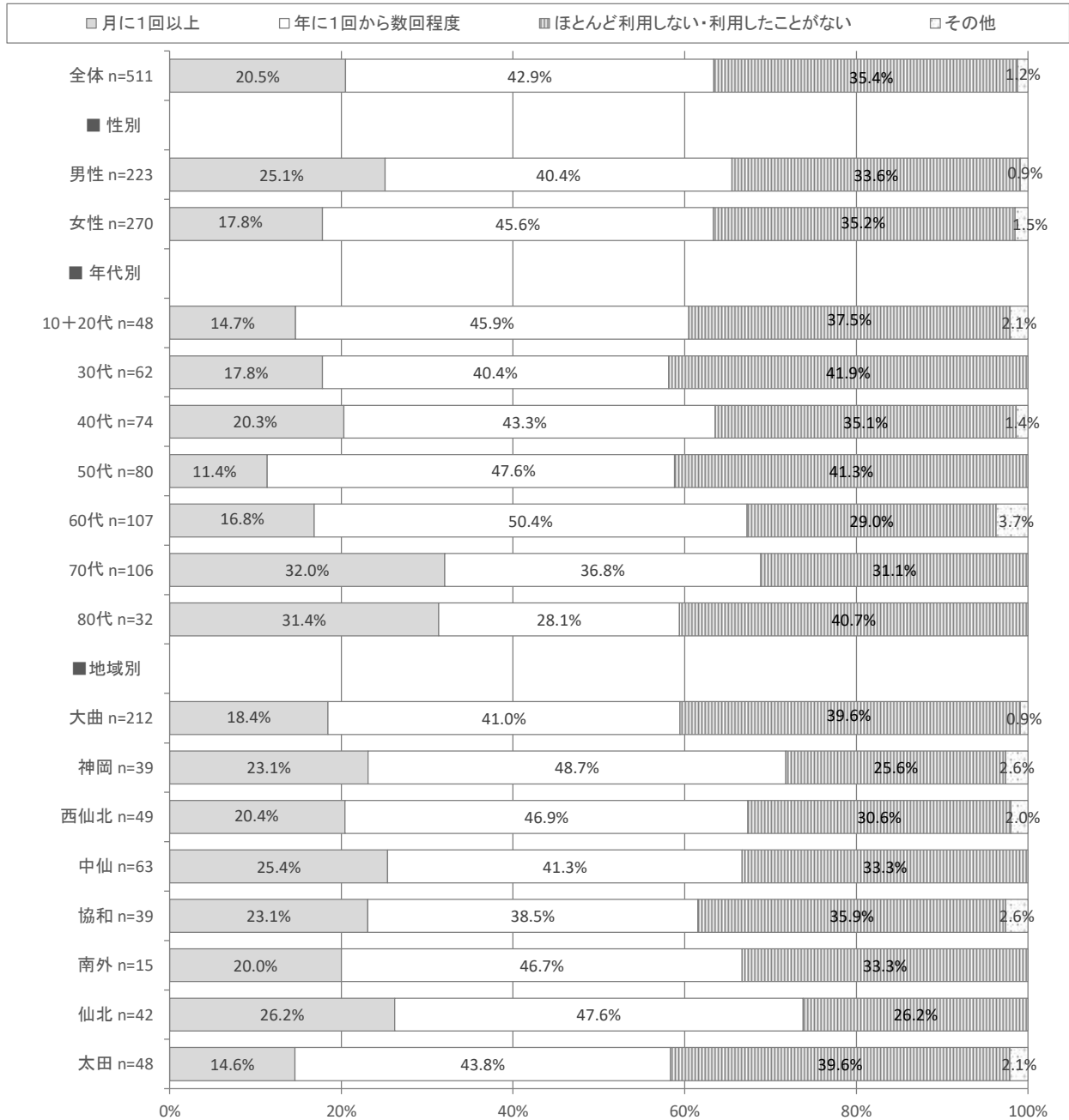
- ◆ **調査目的：** 市では市民の健康増進や市外からの交流人口拡大を図るため、市内7つの温泉施設を設置している。しかしながら、各施設では老朽化等に伴い管理費が増大しているほか利用者が減少傾向となっており、施設や経営の見直しが必要となっている。そのため、市所有温泉施設に対するご意見を伺い、今後の運営改善や将来的なあり方などを検討していくための参考とする。

#### 【問1】市内外を問わず温泉施設（入浴、宴会、宿泊などで）をどのくらい利用していますか。

- 全体では、「年に数回程度」が35.2%と最も高く、次に「ほとんど利用しない」が30.3%となっている。
- 利用頻度を、「ほぼ毎日」「週に2、3回程度」「週に1回程度」「月に2、3回程度」「月に1回程度」を合わせた「月に1回以上」グループと、「年に数回程度」「年に1回程度」を合わせた「年に1回から数回程度」グループと、「ほとんど利用しない」「利用したことがない」を合わせた「ほとんど利用しない・利用したことがない」グループと、「その他」の4グループで比較すると、「年に1回から数回程度」のグループが42.9%で最も高く、次いで「ほとんど利用しない・利用したことがない」が35.4%、「月に1回以上」が20.5%となっている。
- 上記4グループを年代別で見ると、10代と20代を合わせた年代と40代から70代では「年に1回から数回程度」が最も高く、30代と80代では「ほとんど利用しない、利用したことがない」が最も高くなっている。また、60代のみ「ほとんど利用しない、利用したことがない」が29.0%で3割を下回っている。70代以上では、他の年代と比べ「月に1回以上」が高くなっており、70代で32.0%、80代で31.4%となっている。
- 同じく地域別で見ると、「ほとんど利用しない・利用したことがない」は大曲地域と太田地域が39.6%で最も高く、次いで協和地域が35.9%で3番目に高くなっている。



3. 1. 1 個別事業評価「市所有温泉施設について」



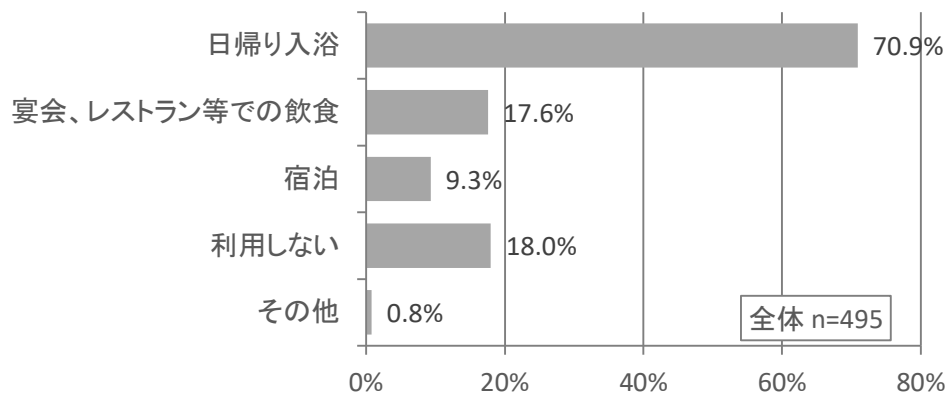
■その他の回答

- コロナのせいで利用していません (20代/女性、60代/女性)
- コロナ前は利用していたが、ここ2年くらいは利用していない (60代/男性)
- 利用したいがコロナ収束後 (60代/女性)

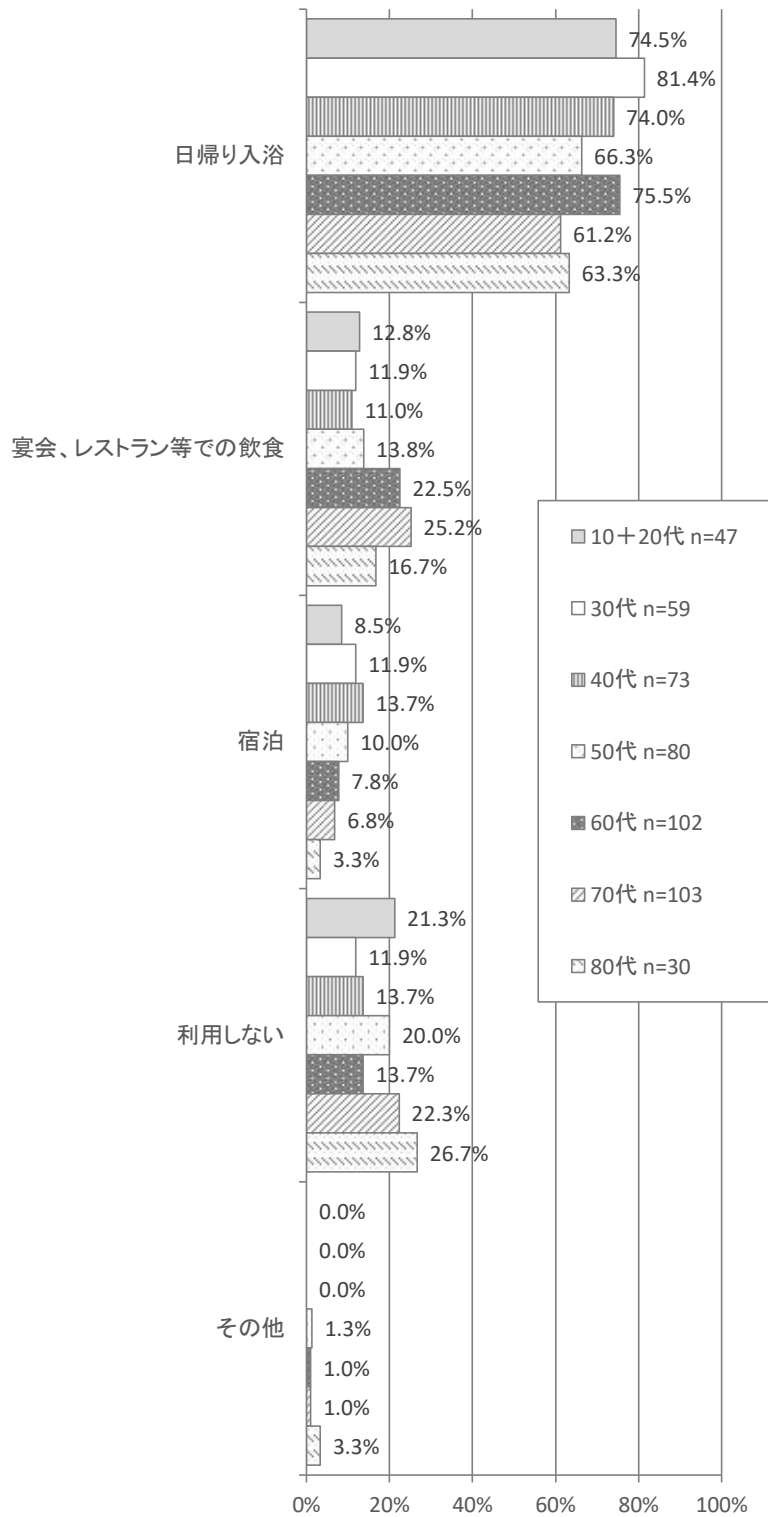
【問2】温泉施設の主な利用目的は何ですか。（複数回答可）

- 全体では、「日帰り入浴」が70.9%と最も高く「宴会、レストラン等での飲食」（以下、「飲食」）と「利用しない」がほぼ同じ割合となっている。
- 年代別で見ると、40代以下と60代で「日帰り入浴」がやや高く、「飲食」は60代以上で高い傾向にある。また、「利用しない」は80代で26.7%と最も高く、30代で11.9%と最も低くなっている。

■全体



■年代別

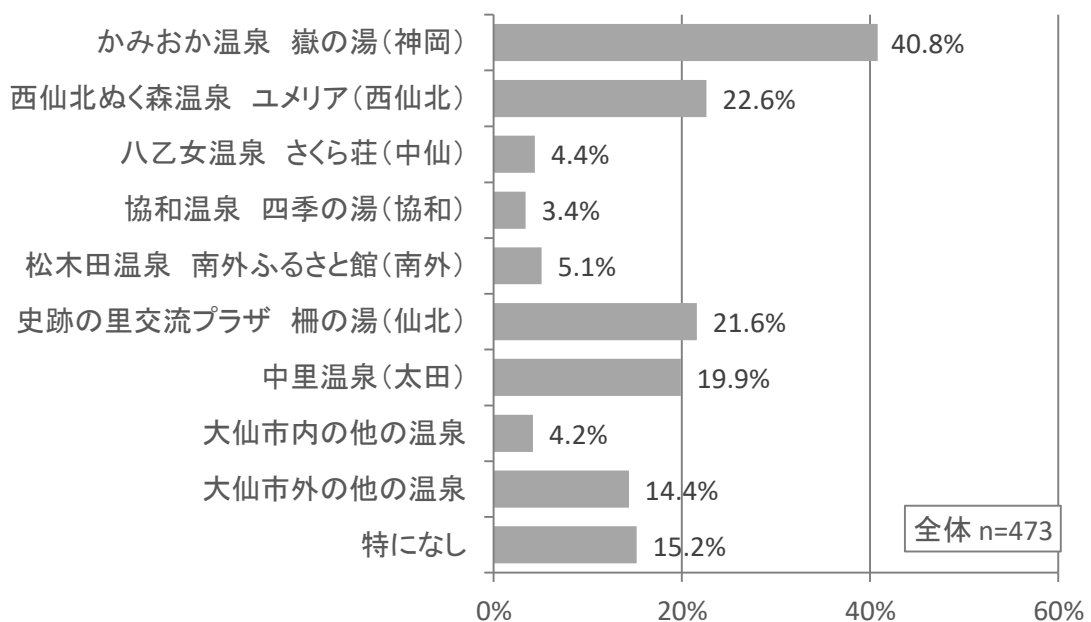


【問3】よく利用する、あるいは利用したことのある温泉施設はどこですか。

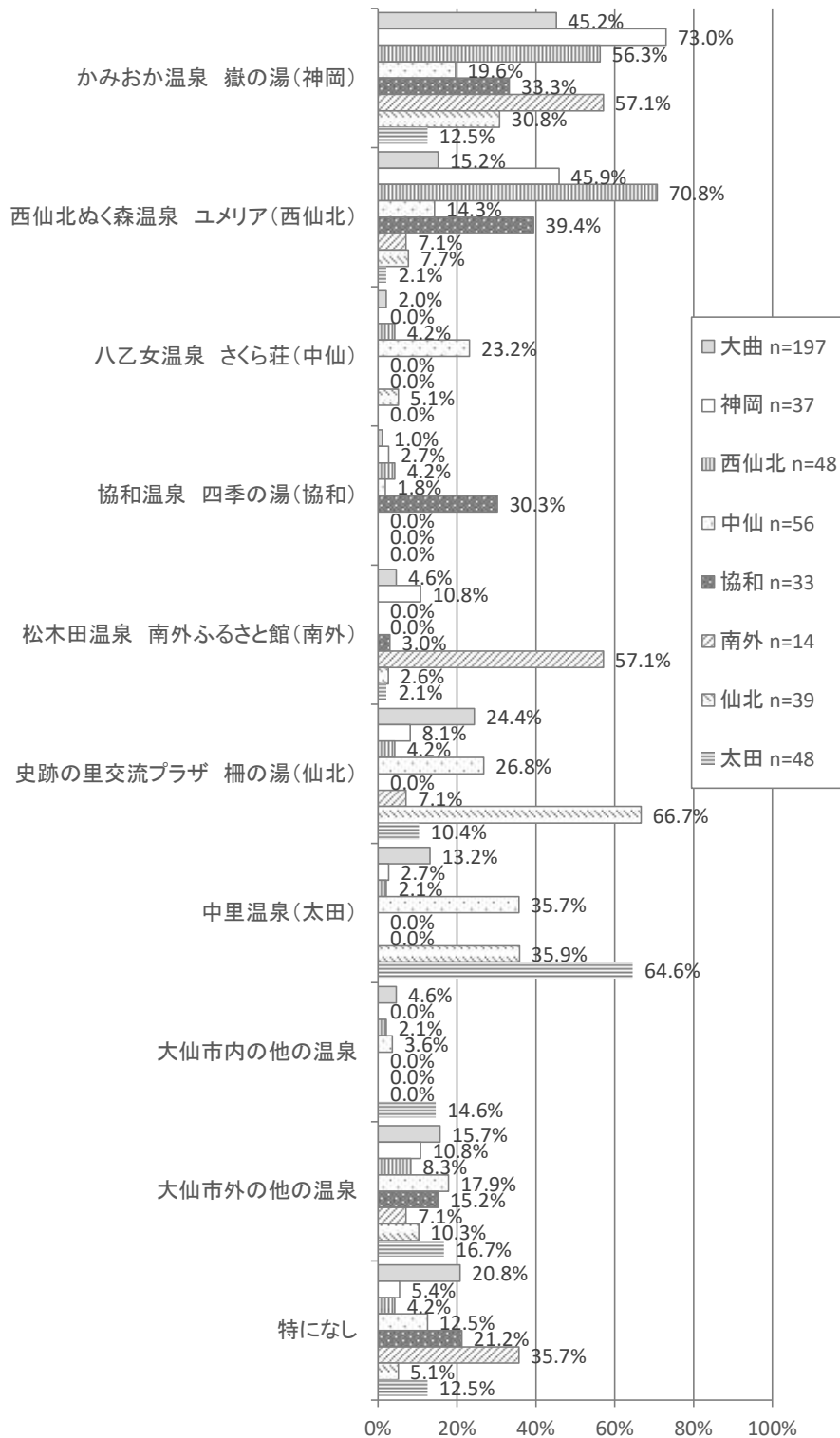
(2つまで回答可)

- 全体では、「かみおか温泉 嶽の湯」が40.8%、「西仙北ぬく森温泉 ユメリア」「史跡の里交流プラザ 柵の湯」「中里温泉」がほぼ同程度で約20%となっている。
- 地域別で見ると、全地域で回答者の居住地にある温泉施設が最も高く、「八乙女温泉 さくら荘」「協和温泉 四季の湯」以外では50%以上となっている。また、回答者の居住地に隣接する温泉施設が2番目に高い傾向となっている。

### ■全体



■地域別





## ■市内の他の温泉

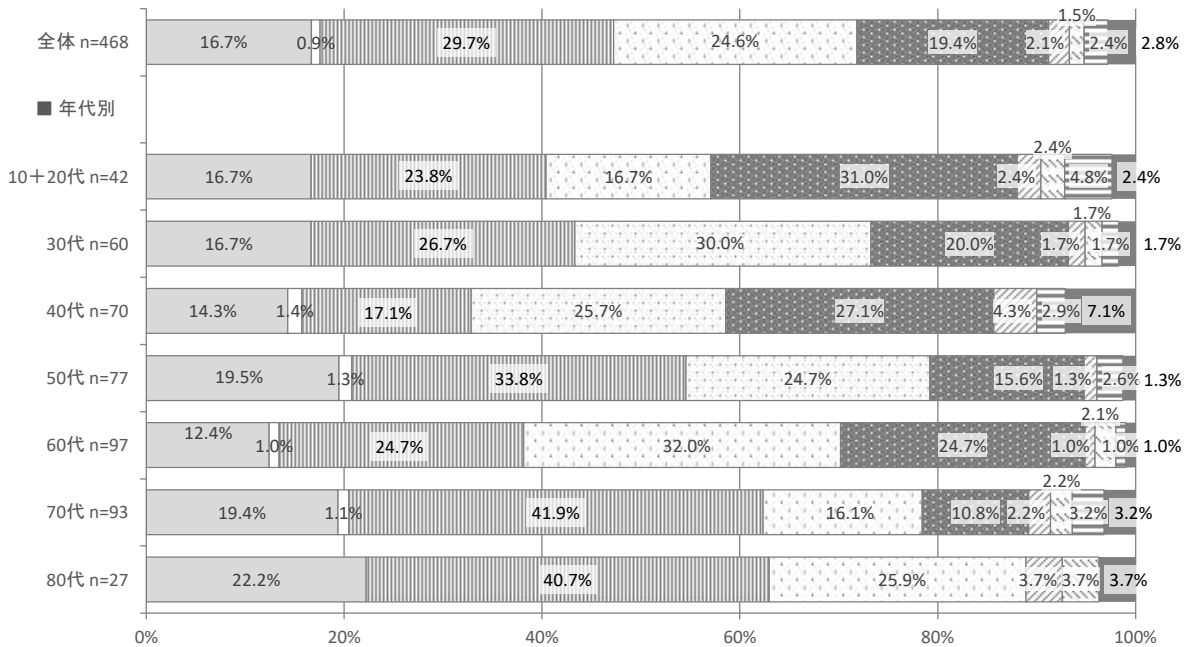
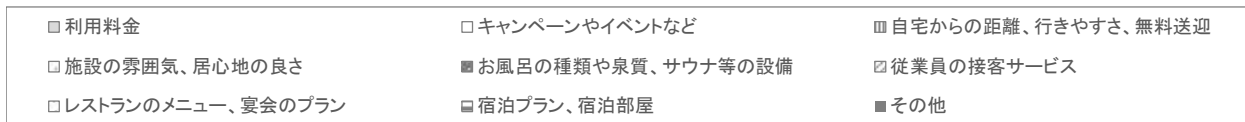
- スパ西遊喜
- 奥羽山荘
- 神湯館

## ■市外の他の温泉

- 花葉館
- ゆぼぼ
- 乳頭温泉郷
- やまゆり温泉
- あったか山
- サンアール
- 道の駅岩城、おおうち
- ユアシス
- こまち
- 水沢温泉
- 横手クォードイン
- 西木クリオン
- 横手ゆうゆうプラザ
- 国見温泉
- ねむの丘
- 横手市・秋田市の温泉
- さくら荘（横手市）
- 秋田温泉さとみ
- 桜温泉
- 田沢湖温泉
- 湯とびあ
- 田沢湖の温泉
- 学校のすみか
- 美郷町の温泉
- 秋田温泉
- 五輪坂としとらんど
- 大沢温泉
- つなぎ温泉

**【問4】温泉施設を利用するうえで最も重視することは何ですか。**

- 全体では、「自宅からの距離、行きやすさ、無料送迎」（以下、「行きやすさ」）が最も多く29.7%、次いで「施設の雰囲気、居心地の良さ」が24.6%となっている。
- 年代別で見ると、年代が上がるにつれて「行きやすさ」が高くなる傾向にあり、70代以上では40%を超えている。また、年代が下がるにつれて「お風呂の種類や泉質、サウナ等の設備」が高くなる傾向にあり、10代と20代を合わせた年代で最も高く、31.0%となっている。



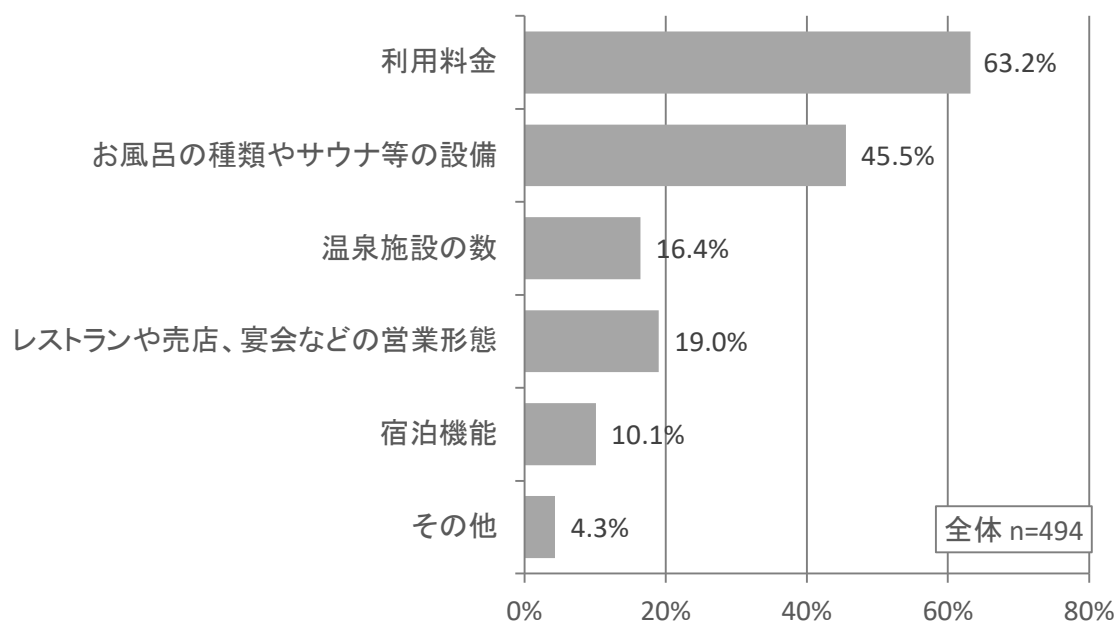
**■その他の回答**

- 清潔感・衛生管理。（20代・30代・40代・50代・70代／女性）
- コロナ対策。（40代／女性）
- スキー場に隣接しているから。（40代／男性）
- 開店時間。（40代／男性）
- 貸切風呂。（60代／女性）

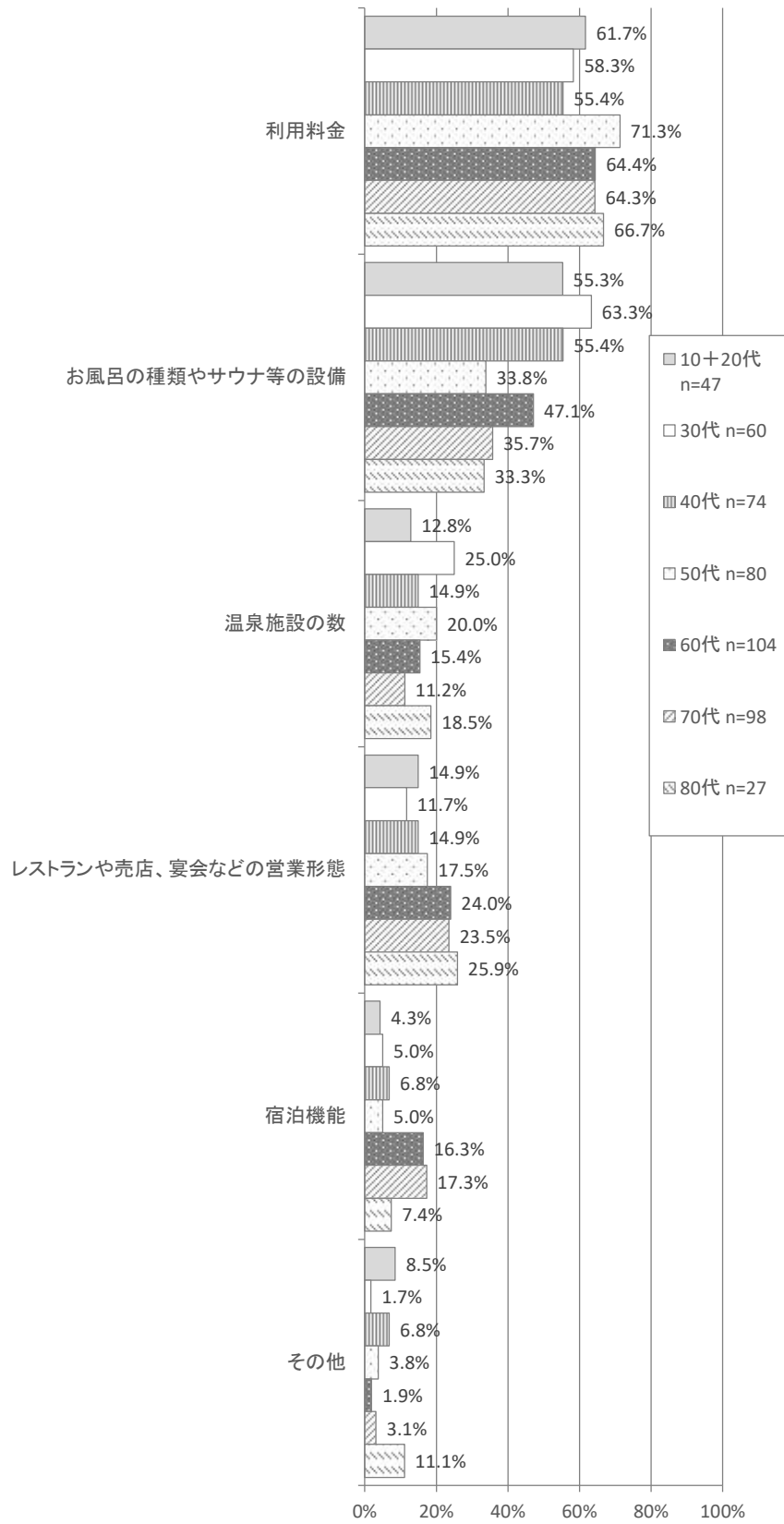
【問5】 今後、市の温泉施設経営の合理化を進めた場合、施設の統廃合、設備の縮減、利用料金や営業形態の見直し等を実施する可能性があります。そのような場合でも維持・確保してほしいと思うことは何ですか。（2つまで回答可）

- 全体では、「利用料金」が最も高く63.2%、次いで、「お風呂の種類やサウナ等の設備」（以下、「温泉設備」）が45.5%となっている。一方で、「宿泊機能」は最も低く、10.1%となっている。
- 年代別で見ると、全年代で「利用料金」が高く、どの年代でも50%以上となっており、30代以外では最も高くなっている。なお、30代では「温泉設備」が63.3%で最も高くなっている。また、40代では「利用料金」「温泉設備」が同割合で55.4%となっている。「温泉設備」は年代が下がるにつれて、「レストランや売店、宴会などの営業形態」は年代が上がるにつれて高くなる傾向にある。

■全体



■年代別



## ■その他の回答

- 衛生管理・清潔感。(20代・30代・40代・50代/女性、)
- そもそもこれに税金を使用する事がナンセンス。税金は別の使い方が在るはず。(50代/男性)
- 大曲近辺にあればいい。(70代/女性)
- 居心地の良さ・施設の雰囲気。(50代/女性)
- 立地・行きやすさ。(40代/男性、80代/男性、20代/女性)
- 地域バランス。(60代/男性)
- コロナ対策。(70代/男性、20代/女性)
- 従業員の接客マナー。(80代/男性、60代/女性)
- 泉質。(40代/女性)

### 【問6】市所有温泉施設は大仙市内にいくつあればよいと思いますか。

- 全体では、「現状のまま」が最も高く57.9%、次いで、「3つ程度」が19.8%となっている。
- 年代別では、全年代で「現状のまま」が最も高くなっている。また、10代から30代では「現状より多く」、60代と70代では「3つ程度」が他の年代に比べ高くなっている。
- 地域別では、全地域で「現状のまま」が最も高く、また、「現状より多く」は居住地域に市所有温泉施設が無い大曲地域で最も高く、17.3%となっている。一方で、「3つ程度」が最も高いのも大曲地域で24.5%となっている。また、大曲・協和地域では「市所有の温泉施設は必要なし」が、他の地域に比べ高くなっている。

3. 1. 1 個別事業評価「市所有温泉施設について」



■その他の回答

- ある程度集客が見込まれるのであれば現状のままで。(20代/性別無回答/大曲)
- 半分くらいの数で良い。(80代/女性/中仙)
- 地元の人が必要としていけばいくつでも。(40代/女性/協和)
- 現状の内容によるが地域のコミュニケーションの場所としては必要だと思う。とくに高齢者の楽しみの場。(40代/女性/太田)
- 現在の状況に合ってる数、質で考えるべき。(30代/女性/大曲)
- 現状の1~2の減で、施設の状態、人口分布による検討判断。(40代/男性/中仙)
- スーパー銭湯がほしい。(60代/女性/南外)
- 民間で管理維持できるなら市所有である必要はなし。(20代/女性/大曲)

【問7】市所有温泉施設に関して、ご意見やご提案などがありましたらご記入ください。

(自由記述)

- ほとんど利用しませんが、今、何でも値上げの話ばかりでやはり気になるのは利用料金だと思います。温泉の種類なども気になるとは思います。
- 露店風呂の広さと充実。
- 維持していくのは大変と思うが西根の温泉は復活してもらいたい。市でなんとかありませんか？
- 入浴後、ゆっくり休める無料のスペース（部屋やリクライニングチェア）があること。トレーニングルームと一体となった施設、又は体育館に併設した入浴施設（動くことができる+リラックスできる）。
- 自宅に遊びに来た客人達を宿泊させられるような施設があればよいと思う。又は、温泉だけでもよい。
- 年間1億円は大きいと思うので施設を減らすべきだと思う。
- 若い人も行きやすい雰囲気。利用しやすい温泉場。
- 例えば、市民全員が1回でも無料で使用できる状況になれば、また行きたいと思う人は少なからず現れると思う。
- 旧大曲市内に温泉施設がないのであれば良いと思う。
- 年を重ねるにつれ、近場での利用を求む。
- 老人は車、足がないので曜日でバスとかだしてもらえたらもっと行けるのにとみんなで話をしています。行きたいのに行けないのが残念です。
- 「健康ランド」的な温泉があればもっと自由に行けるとは思います。（時間的に無理かもしれませんが）長い時間ゆっくりできるような。
- 現状維持を希望します。経営改善はアイデアを出せば良い方策が見つかるかもしれません。良い市（施設）にするために、職員ががんばることが最優先だと思います。
- 各温泉施設にどれくらいの宿泊人数を迎えられるかわかりませんが、設備の縮小であれば、これを少なくするか、0にした方がいいと思います。（宿泊の施設）そのかわり、レストランや売店をもっとにぎやかにして地元産の野菜や民芸品、又は個人の不用品等の売買などして見たらどうか？たとえば、第1日曜日は中里温泉で、第2日曜日は柵の湯で等、イベントをずらしてやってみたらどうか？
- みんなでくつろげる場所があったほうがいいし、温泉施設は近くにあったほうが利用しやすいので、今のまま必要だと思います。
- 市外からの客数が増える方が良いと思う。大きな道路が近くにあり、道の駅や直売所や温泉や宿泊やレストランやキャンプ場などと、ドライブ目的の客を呼べないものか。
- 温泉の近くに子供や家族で利用できる施設（公園や商業施設等）、また温泉とネカフェ等を複合して若者家族向けにリニューアルすればよいのでは？1日遊べる大江戸温泉のようなものがあれば、他市からもお客さんが見込めそう。今後コロナでどうなるかわからないし、減っていくアクティブユーザー（老人）の為に施設はもう現状維持しても衰退するのが見えてるのでターゲットをかえるべき。そもそも子育ての支援をしていると主張している市の割に子供や家族で過ごしたりする施設がなさすぎる。



- 他県に比べて温泉施設が安価で利用しやすいと感じていましたが、そのため、一億円もの公費が投入されていたことは知りませんでした。温泉施設は無くなってほしくないのですが、莫大な費用がかかるのは悩ましいところですね。
- 衛生的な管理を求めます。
- それぞれの地域で、それぞれ大切にされているので必要だと思いますが、新しいものよりも今ある場所をもう少し活用してほしい。合理化や効率化だけではないと思います。付加価値的なものがあるともっと活かせると思います。
- 施設数は旧市町村によるもので大仙市となり統廃合していきたいのですが、温泉は地域の人々のより合いの場でもあります。できればそのまま現状を確保できればいいと感じています。
- イベント等を行うと客足が増えると思う。
- 情報公開をして、赤字の有無。
- 八乙女温泉（交流センター内）を県や市主催の行事に参加した際に利用しました。私自身「温泉を利用しに行く」と言うことはあまりありませんが、宿泊施設として利用するには最適だと感じました。会議室や宴会場などの比較的大きな部屋と個室（一人部屋）や2～3人で泊まる部屋などがあるため、学習合宿や宿泊体験学習など学校行事に関連した場で利用を促進していくとよいのではないかと考えます。観光客や県外・市外の方の誘致も大切だと思いますが、まずは地元、地域住民やその地域の学校等での活用利用の幅を広げていくことが大切だと考えます。
- 老朽化して不潔な感じを受ける施設もあるので、清潔感のある施設、サービスを期待します。そうするともっと行きたいな～と思えると思います。
- 施設内で麻雀・将棋等できることを望んでいる。
- 今はコロナもあり控えておりますが、温泉施設の日帰り入浴は仕事帰りや休日、息抜きや体調管理に利用することがあり、楽しみになっていますので、より身近にあると良いなあと思っております。
- 以前、中里温泉を利用したことがあります。部屋食ができてパック料金で一日ゆっくりできることがとても良かったです。市民の割引、サービスなどがあればうれしいです。安くて美味しいご飯が食べられたら最高です。
- ホテル・旅館・温泉等は宿泊客のニーズの変化もあって苦境に立たされているところが多く、経営は光熱費・水道費・人件費といった固定費の負担が大きく経営状態が悪化すると、それをまかなうことすら難しくなる。顧客のニーズを刺激する付加価値を提供するのも一つの手であり、総合アミューズメント施設など、イオン等に変わる施設（大型）を温泉を含め建設してもらいたい。東海地方であるコロナワールドのような施設、200人くらいの雇用も可能に（企業誘致）。
- 24時間の岩盤浴もある健康ランド（漫画がたくさんおいている）など、館内着で一日ゆっくりすごせる所がほしいです。
- 旧大曲市内に施設がない。検討すべきでないか。既施設で清掃行き届いてないところある。不衛生。昼が常に感じ良くない。新しければなお良い。
- 現状維持できれば問題ないけれど、市で経営することに限界がある場合は委託するのもありだと思います。雇用につながればいいと思います。
- 子供も大人も楽しめる施設。景観も良くする。
- のんびりと休める大きな部屋があればよい。例えば横になってゆっくり眠れる部屋。



- 温泉施設があることで、地域住民だけでなく市外の方も来るきっかけになるので維持してほしいです。ふるさと館は人気があります。設備が古くなっているので改良されたらうれしいです。
- 難しい問題ではありますが、やはり利用者数が伸び悩んでいる所から考える必要あり。高齢化なので当然ですね。
- 厳しい予算の中から高額な運営費の支出等、確かに難しい事とは思いますが。しかし、人間が生きる上で、心の「やすらぎ」は是非とも重要かとも思います。しかし、予算も限られている以上、古い施設を2つぐらいは廃止する事も考えなければいけないと思います。
- 今のサービスで充分です。頑張ってください。
- 温泉大好きです！
- 不要だと思う。何のための温泉ですか？
- ユメリアのプール復活求む。
- 市外から移住したのものにとってはどこも行きづらさがある。値段、建築年数、場所、雰囲気、設備が分からず、足を運びにくい。ホームページを参照したことがあるが、それだけでは進んでいく気になれず、いけない。温泉施設の紹介、設備、施設のイチオシなどを市報などの情報発信できるもので特集として掲載。利用特典（値引き、ジュース一杯無料、大仙市オリジナル商品プレゼント）等、何か行くきっかけがあれば。子育て・ご高齢世代でも気軽にいける企画（温泉とは関係の無いイベントなど）。温泉スタンプラリー（紙でも電子でも）などで市民全員が興味をわくものを。
- その昔、元市所有温泉施設の運営に関わったことがありましたが、多大なる支援をいただきながら、残念ながら力及ばず運営継続とはなりません。その際感じたことは、市営・指定管理施設と民間施設は別物で、考え方、やり方も全く別に行うべきで、市民・行政関係者の意識の統一も難しいということです。また、市営施設の補助金や税金の免除などの措置は理解に苦しむ場面が多々ありました。適切な料金を徴収し、人員配置をし、サービス料を徴収し、自己責任で運営している施設と市の補助がある施設では同じ施設してみるのは難しいでしょう。近年は縮小傾向にあり、逆に適切な経営判断を行っているように見受けられますが、運営に税金がかかり増しになっている現状は看過できないように感じます。施設の運営に関しては、住民の意見を、利用者・非利用者問わず広く聞き取りを行い、情報公開していけばよろしいかと思えます。
- 特別ありませんが、「心が落ち着く安らぎの場」であってほしいです。障がい者の人にも優しい施設であってほしいです。
- 維持管理費、利用者の減少等で見直しはいずれ避けられないと思われます。
- 現在は、コロナの感染が心配で小さな子どもを連れて利用することができません。コロナが収束したら家族で温泉施設を利用させていただきたいと思えます。そのときは、お得な料金で利用できたら幸いです。

- 青森県だと温泉が日常なのですが（個人の意見ですが）秋田は温泉が日常になっていないような気がするので、料金を地元民料金にして（200円ぐらい）利用しやすいようにしてはどうかと思います。温泉＝健康寿命につながっていると思います。泡のぶくぶくした風呂は疲れがとれ、魅力があると思うので天然温泉掛け流し+泡風呂+シャワーの出が良い、掃除が行き届いている施設がいいと思いました。
- 新しい施設をつくるのではなく、現状のままでいいと思います。ただ、老朽化した所を直して欲しいです。古い建物でも清掃がゆきとどいて接客が良ければもっと利用者は増えると思います。それかいつその事、新しくリニューアルし外観や内装をきれいにする。市内の客は利用するかもしれないが市外や県外の客は選ばないと思います。
- 交通の便です。前はユメリアへ車で良く行っておりましたが、それも出来なくなりバス停までは遠くて歩けません。近くに乗合場所があれば利用したいと思います。
- コロナ禍の中で各温泉施設は大変だったと思います。コロナ禍前は、関東方面からの大学の部活や卒業式の謝恩会等で使用されたいと思います。その分利益等がどうだったのか気になります。運営費として年間1億円を市で負担しているようですが、今後維持していくためにはどのように維持費を捻出していくのか心配です。
- バス利用でなければ行けない人もいますので、温泉発着があるといい。嶽の湯のように、玄関前まで行けるバスが最高です。
- いつも丁寧な接客ありがとう（柵の湯）。
- 大曲地域に温泉があれば助かります。無料送迎があれば、利用者が増えるのでは。
- 障害のある方も楽しく温泉を味わえるような施設をぜひ今後のために検討していただきたい。差別のない優しい（心と体に）施設設立と対応。
- 嶽の湯の脱衣場を広くしてもらいたい。
- 県内はもちろん、県外の方にも来てもらえるように周知してほしいと思います。
- レジオネラ菌に注意するよう日々清潔に。
- 健康ランド的な運営希望（例）24H営業、12時までの深夜営業 etc
- 人口的に営業が厳しい部分もあると思いますが、旧市町村内の適度な距離に温泉施設があると安心しますのでできれば現状維持をお願いしたいです。
- 県外などにあるスーパー銭湯などの施設が欲しい。
- 職員の方々の接し方が悪いと思います。利用する人が行っているのに職員同士の話し声が大きいのではないか。帰る時の「ありがとう」がほとんどないです。
- 温泉が好きでコロナ拡大前は仕事でつかれた時はいやしを求めて温泉に行っていました。できれば温泉施設の数減らしてほしいです。むしろ体育館や運動場などの近くに温泉を作してほしいです。
- 混んでいる施設とそうでない施設の差がすごい。人口が多い中央に必要。他にないので行くが、嶽の湯の脱衣所が非常に混雑していて、利用をためらうことがある。
- 利用者の多い施設を残してやって行った方が良く思う。
- 地域住民の交流場所が温泉施設になっています。また、宴会や総会の場所として利用する為にも、そのような施設を残してほしい。
- 貸切風呂が備えてあれば助かります。
- 年々利用者が減少している昨今思いきった政策をとる事は大切だと思います。目先の事より、先々の事を考えて事をおこしてほしいと思います。

- 温泉入浴は健康に良い。病気になる確率はぐんと下がる。国保の医療費総額は激減する。旧南外村の国保データ（H20～当時を調査）により明らかです。温泉は大切です。医療費負担で金を使うも、温泉施設の維持に金を使うも同じです。健康な人間が多ければその他の効果は図り知れないと思います。
- ユメリアなどの場合は無料休憩所がもう少し広ければ利用者がゆっくりできるのではないかと思う。
- 利用客のデータ、アンケートをとる。
- かみおか温泉（嶽の湯）の脱衣場を広くして下さい。
- 温泉施設内のコロナの感染対策がしっかりとされて、とても安心して利用できています。
- サウナの人気があるのにサウナ室が広くて、水風呂、露天風呂が大きいところが少ない。ベストがユメリア。嶽の湯、柵の湯はサウナ室が狭すぎる。前は中里温泉を利用していたが、今は新館がやってないので別に行く。サウナ室が広くて良かったが、露天風呂が狭くてガッカリ。改装などお金がかかるが利用者のニーズにそっていけば、それぞれの温泉施設ももっと利用が増えると思う。
- 近所にもあるが、ほとんど利用しない。
- 何かしらのイベントがない。レストランの充実が足りない。集客の努力が足りない。
- 数なども、もちろん大事だと思うが、人が集まる施設として、清潔感があったり、付属のレストランが美味しい等、総合的な魅力がある施設作りを継続的（メンテナンスの持続も含めて）に行ってほしい。
- イベント時や自宅の水道の調子が悪かった際に温泉を利用しました。雰囲気も良くまた利用したいと思いますので現状維持が望ましいです。
- 脱衣場荒らしがないよう貴重品ロッカー等の設備はしっかりして欲しいと考えます。また、清潔感のある施設である事もお願いしたいなと思います。
- 老若男女が利用しやすい周知が必要。
- あまりにも温泉には行かないので、古い記憶となっておりますが、秋田県としての温泉といえば、玉川温泉、湯瀬温泉、乳頭温泉郷しかしらないので、馴染みがないのが行かない理由なのかと考えます。何事も宣伝することが重要です。私もですが、特に若い人は温泉に気軽に行くということは少ないと思います。学校ごとに割引券など行きたいと思えるような提供をすることが効果的であると考えます。
- いろいろと経費がかさむようになれば、縮小したほうが良い。
- 全体的に利用客が減少傾向にある。施設の数減らしてより整備しやすいようにした方がいいと思う。スタンプラリーなどのイベントを開いて利用客を増やしてもらいたい。
- 雨があまり降らなかったときに入浴中に水が止まってしまうことがあったので、そういうことがないようにしてもらいたいです。
- 嶽の湯のように温泉そのものよりも周りに公園や図書館などの他施設があると利用しやすい。例えば公園で子どもと遊んでいて汗をかいたり服が汚れたから温泉に入るなどの理由があった方が利用者は確保できると思う。温泉単体である施設なら集客はあまり望めないと思うため廃合しても良いと思う。また税金を使ってまで管理維持する必要はないと思うため民営化しても良いと考えている。
- 利用者数が目に見えて減少している施設を維持する必要はない。
- 複数施設があれば近場で行く人がいるかもしれませんが、少額の利用料金、少人数で経営が厳しくなるのが目に見えてるので大型温泉複合施設を市に1つあれば良いと思います。

◆調査結果まとめ及び今後の方針

- 問4の温泉施設を利用する上で重視することの結果から、「行きやすさ」や「施設の雰囲気・居心地の良さ」が重視されていることが分かった。また、実際に居住地域に立地している温泉施設を利用している割合が高くなっている。市民ニーズとして、近場に温泉があり、くつろげる空間としての温泉施設が求められていると考えられる。
- 問5の温泉施設経営の合理化を進めた場合でも維持・確保してほしいこととして、「利用料金」や「お風呂の種類や泉質、サウナ等の設備」の割合が高かった。また、利用者は、年代が下がるほど「お風呂の種類や、サウナ等の設備」を重視する傾向となっている。今後は、持続的な施設運営を可能とするため、各温泉施設の「利用料金」に加え「お風呂の種類や、サウナ等の設備」を含めた差別化が必要と思われる。
- 市所有温泉施設は、市民の保養、休養及び交流を促進し、市民の豊かな生活に一定の役割を果たしているものと捉えているが、「年に1回から数回程度」「ほとんど利用しない・利用したことがない」を合わせた割合は約8割にのぼっており、また、維持費の負担増への懸念から縮減・廃止等の意見もあることなどを踏まえ、本アンケートで得られた温泉施設の利用目的や重視していること、さらには継続して望まれていることなどを参考にしながら、今後の運営に係る方向性を検討する。

◆ 調査目的: SDGsは、世界が直面する様々な問題をみんなで協力して解決していくため、2015年に国連で採択された「世界共通の目標」で、17の目標(ゴール)と169の達成基準(ターゲット)が設定されており、2030年までの達成を目指している。

SDGsが目指す「誰一人取り残さない」持続可能な社会を実現し、「今」も「未来」も幸せに暮らし続けていくためには、私たち一人一人が「自分のこと」として考え、行動していくことが重要である。

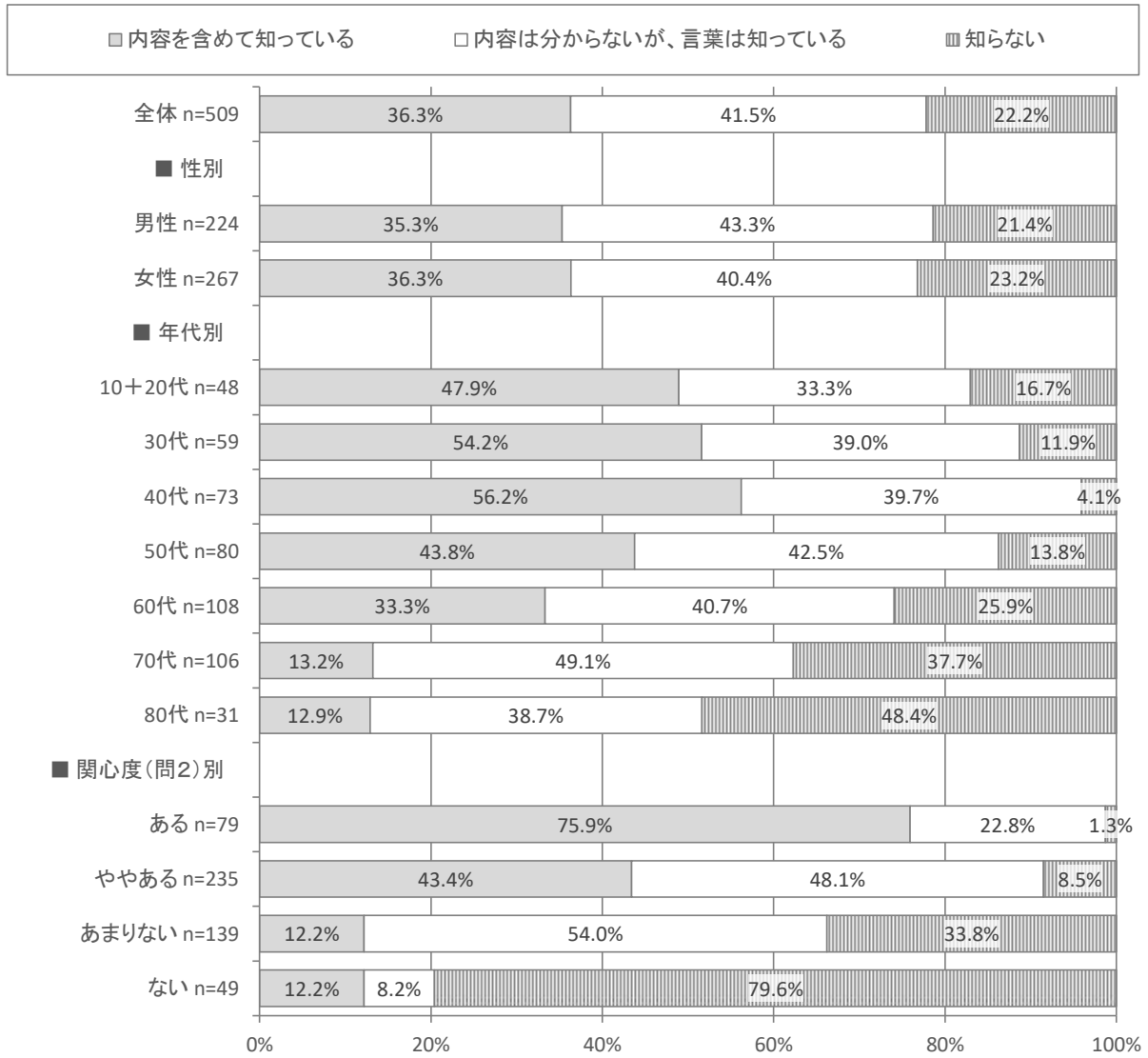
こうしたことを踏まえ、市では、総合計画をはじめとする各種計画にSDGsの考え方を取り入れ、着実に進めるとともに、市民の皆さまにSDGsへの理解を深めていただきながら、その達成に向けて市全体で取り組んでいくため、市広報やホームページを通じた普及啓発も行っている。

本調査では、市民の皆さまのSDGsの認知度や取組状況などを伺い、今後、さらにSDGsを推進していくための参考とする。

#### 【問1】あなたは、SDGsという言葉を知っていますか。

- 全体では「内容を含めて知っている」「内容はわからないが、言葉は知っている」(以下、「言葉は知っている」)を合わせた割合は77.8%となっており、約8割の方がSDGsを認知している状況にある。
- 性別による差異はほとんど無い。
- 年代別で見ると、40代を境に年代が上がる、または下がるにつれ「知らない」が高くなる傾向にある。なお、40代では「内容を含めて知っている」が56.2%で最も高くなっており、「言葉は知っている」と合わせると95.9%となっている。また、「知らない」が最も高いのは、80代で、約半数の方がSDGsという言葉を知らないという結果になっている。
- 問2の関心度別で見ると、関心の度合いが低下するにつれて、「知らない」が高くなる傾向にある。

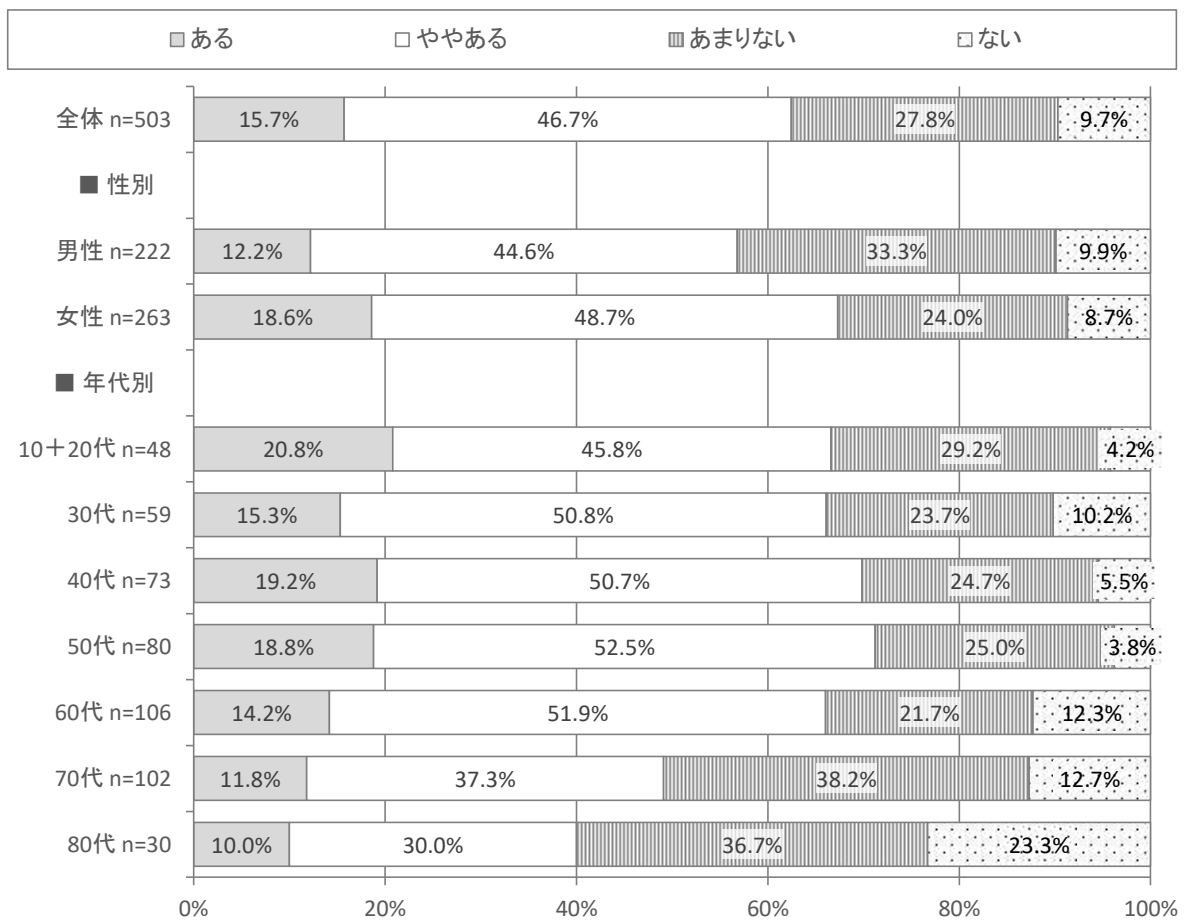
3. 1. 2 個別事業評価「SDGsについて」





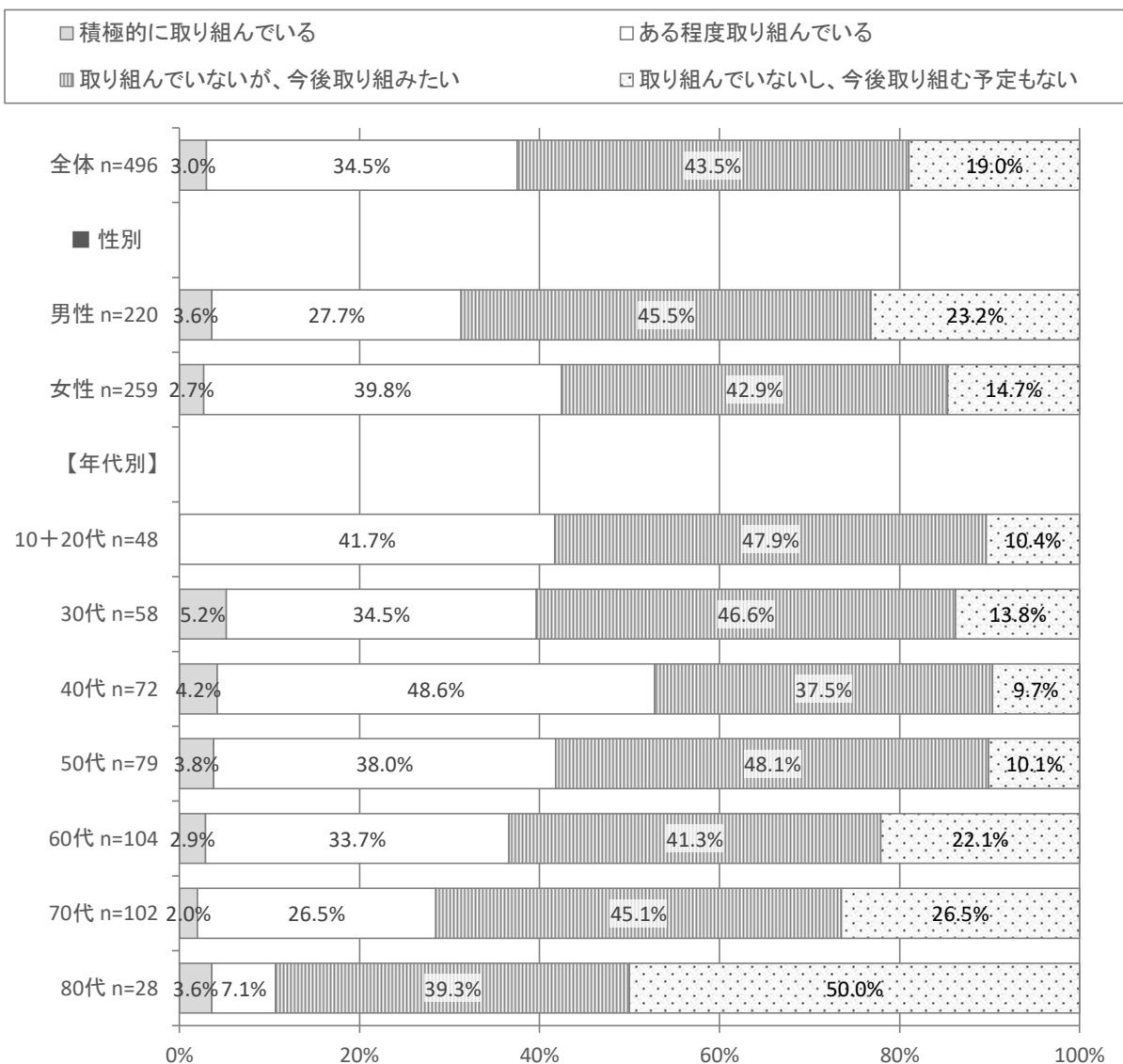
**【問2】あなたはSDGsについて関心がありますか。**

- 全体では、「ある」「ややある」を合わせた割合は62.4%となっており、6割以上の方が程度を問わず関心があると回答している。
- 性別で見ると、「ある」「ややある」を合わせた割合は男性の56.8%に対し、女性は10.5ポイント高い67.3%となっている。
- 年代別で見ると、「ある」「ややある」を合わせた割合は、10代から60代でほぼ同じ割合となっており、約7割の方が程度を問わず関心があると回答している。なお、50代を境に年代が上がるにつれて関心度が低下する傾向となっている。



**【問3】あなたはSDGsを意識して、日常で何らかの取組を行っていますか。**

- 全体では、「積極的に取り組んでいる」「ある程度取り組んでいる」を合わせた割合が37.5%、「取り組んでいないが、今後取り組みたい」が43.5%となっており、8割以上の方が取り組む意欲があると回答している。
- 性別で見ると、「積極的に取り組んでいる」「ある程度取り組んでいる」「取り組んでいないが、今後取り組みたい」を合わせた取り組む意欲のある方の割合は、男性が76.8%、女性が85.4%となっており、問2の関心度と同様、女性が高くなっている。
- 同様に、取り組む意欲のある方の割合を年代別で見ると、10代から50代まではほぼ同じだが、60代以上では年代が上がるにつれて低くなる傾向となっている。





#### 【問4】SDGsの17の目標のうち、次のことについてどのようにお考えですか

##### ■取り組んでいる、または取り組みたいと考えている目標（複数回答可）

- 全体では、割合が高い順に「住み続けられるまちづくりを」が50.1%、「すべての人に健康と福祉を」が40.2%、「平和と公正をすべての人に」が39.1%となっている。一方で、低い順に見ると「産業と技術革新の基盤をつくろう」が11.0%、「パートナーシップで目標を達成しよう」が11.3%、「海の豊かさを守ろう」が18.7%となっている。
- 年代別で見ると、10代から30代、60代、70代で「住み続けられるまちづくりを」が50%を超えて最も高くなっているほか、40代と80代でも2番目に高くなっている。40代では「平和と公正をすべての人に」が38.3%、80代では「すべての人に健康と福祉を」が66.7%で最も高くなっている。また、「平和と公正をすべての人に」は40代以外でも高くなっており、「すべての人に健康と福祉を」は年代が上がるにつれて高くなる傾向にある。

##### ■関心がある目標（5つまで）

- 全体では、割合が高い順に「すべての人に健康と福祉を」が46.9%、「住み続けられるまちづくりを」が45.7%、「貧困をなくそう」が36.3%となっている。一方、低い順に見ると「パートナーシップで目標を達成しよう」が4.5%、「働きがいも経済成長も」が11.9%、「陸の豊かさを守ろう」が12.3%となっている。
- 年代別で見ると、全年代で「すべての人に健康と福祉を」「住み続けられるまちづくりを」が30%を超えており、「すべての人に健康と福祉を」は10代と20代を合わせた年代、40代、70代以上で最も高く、特に70代では62.8%、80代では73.9%と他の年代に比べ非常に高くなっている。「住み続けられるまちづくりを」は50代と60代で最も高く、50代で41.1%、60代で54.3%となっている。また、30代では「貧困をなくそう」が45.3%で最も高くなっている。その他の項目では、30代と40代で「質の高い教育をみんなに」、50代で「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、60代で「産業と技術革新の基盤をつくろう」が高くなっている。

##### ■重要だと思う目標（5つまで）

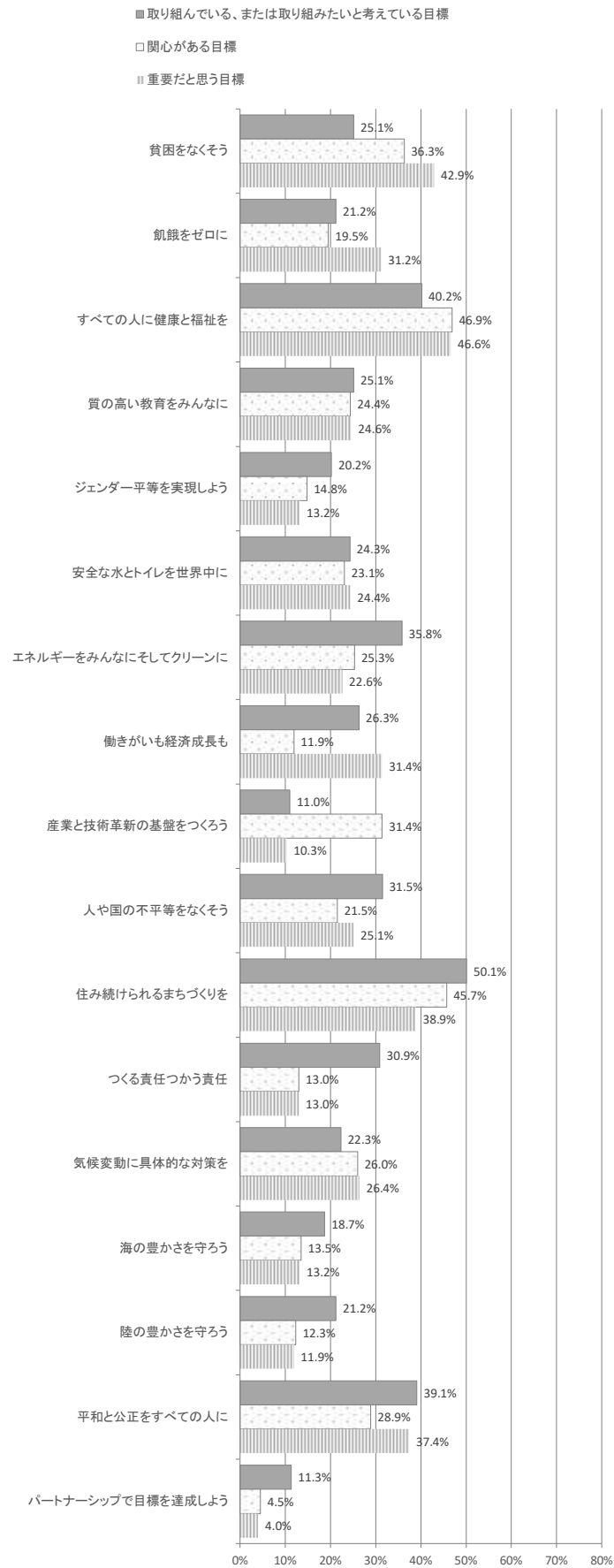
- 全体では、割合が高い順に「すべての人に健康と福祉を」が46.6%、「貧困をなくそう」が42.9%、「住み続けられるまちづくりを」が38.9%となっている。一方、低い順に見ると「パートナーシップで目標を達成しよう」が4.0%、「産業と技術革新の基盤をつくろう」が10.3%、「陸の豊かさを守ろう」が11.9%となっている。
- 年代別で見ると、10代と20代を合わせた年代、30代、50代では「貧困をなくそう」が最も高く、10代と20代を合わせた年代と30代で50%を超えている。40代と60代以上では「すべての人に健康と福祉を」が最も高く、60代以上では50%を超えている。その他の項目では、10代と20代を合わせた年代と80代で「安全な水とトイレを世界中に」、30代で「飢餓をゼロに」、30代と50代以上で「住み続けられるまちづくりを」、50代から70代で「平和と公正をすべての人に」が高くなっている。

■「取り組んでいる、または取り組みたいと考えている目標」（以下、「取組度」）、「関心がある目標」（以下、「関心度」）、「重要だと思ふ目標」（以下、「重要度」）の比較

- 目標別に、取組度、関心度、重要度を見ると、「すべての人に健康と福祉を」は取組度が40.2%（2位）、関心度が46.9%（1位）、重要度が46.6%（1位）、また、「住み続けられるまちづくりを」は取組度が50.1%（1位）、関心度が45.7%（2位）、重要度が38.9%（3位）となっており、この2つの目標は全ての割合が高くなっているが、「すべての人に健康と福祉を」は取組度が、「住み続けられるまちづくりを」は重要度がやや低くなっている。

続いて、「貧困をなくそう」は関心度が36.3%（3位）、重要度が42.9%（2位）となっているのに対し、取組度は25.1%（8位）と低くなっている。「飢餓をゼロに」は取組度が21.2%（12位）、関心度が19.5%（11位）とほぼ同じなのに対し、重要度は31.2%（6位）と高くなっている。「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」は関心度が25.3%（7位）、重要度が22.6%（11位）となっているのに対し、取組度が35.8%（4位）と高くなっている。「働きがいも経済成長も」は取組度が26.3%（7位）、重要度（5位）が31.4%となっているのに対し、関心度が11.9%（16位）と低くなっている。「産業と技術革新の基盤をつくろう」は取組度が11.0%（17位）、重要度が10.3%（16位）となっているのに対し、関心度が31.4%（4位）と高くなっている。「つくる責任つかう責任」は関心度、重要度がともに13.0%（ともに14位）なのに対し、取組度が30.9%（6位）と高くなっている。「平和と公正をすべての人に」は取組度が39.1%（3位）、重要度が37.4%（4位）となっているのに対し、関心度が28.9%（5位）と、ほぼ順位に差は無いものの割合が低くなっている。その他の目標については割合、順位ともにあまり差は無い。

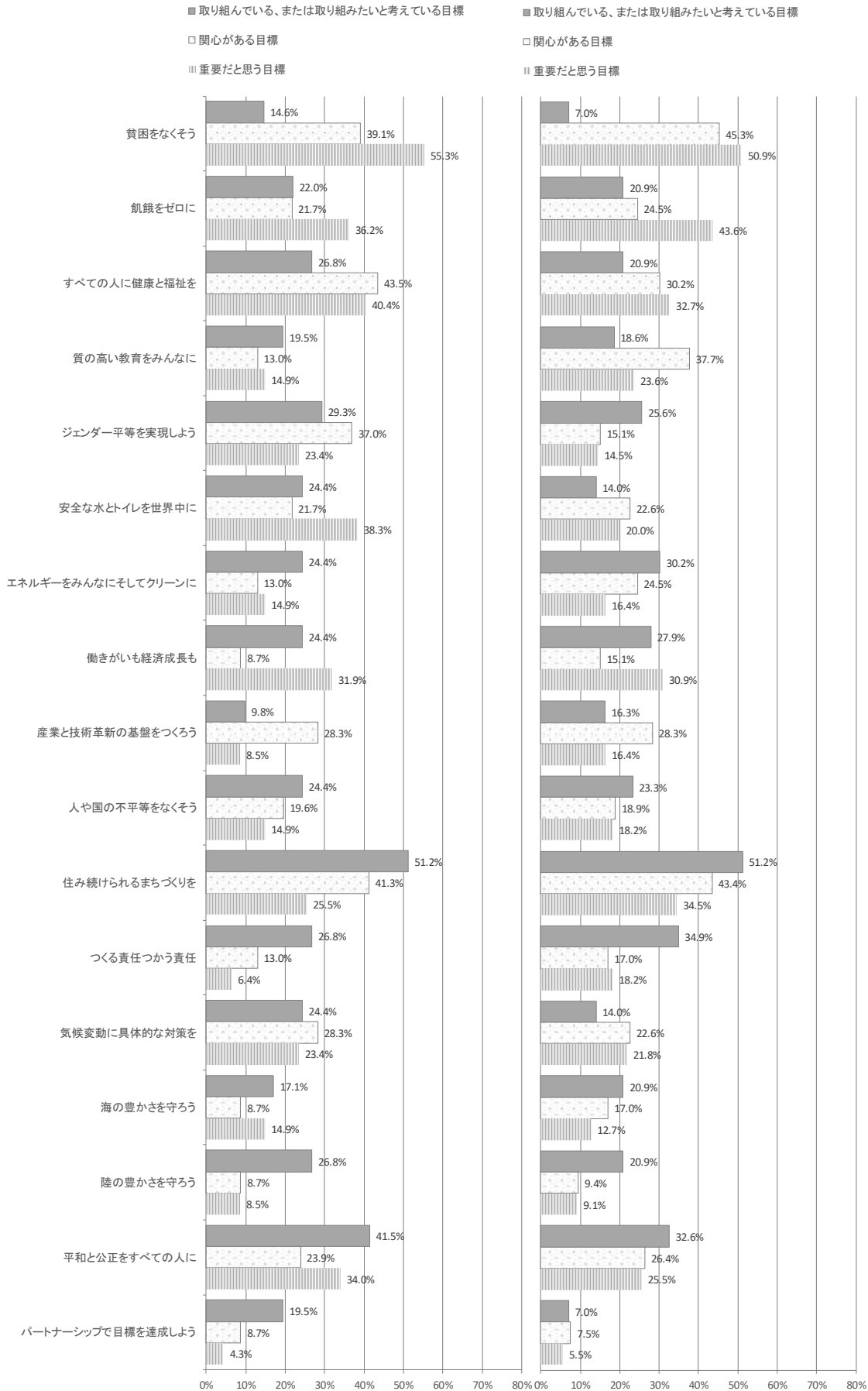
## ■全体



■年代別

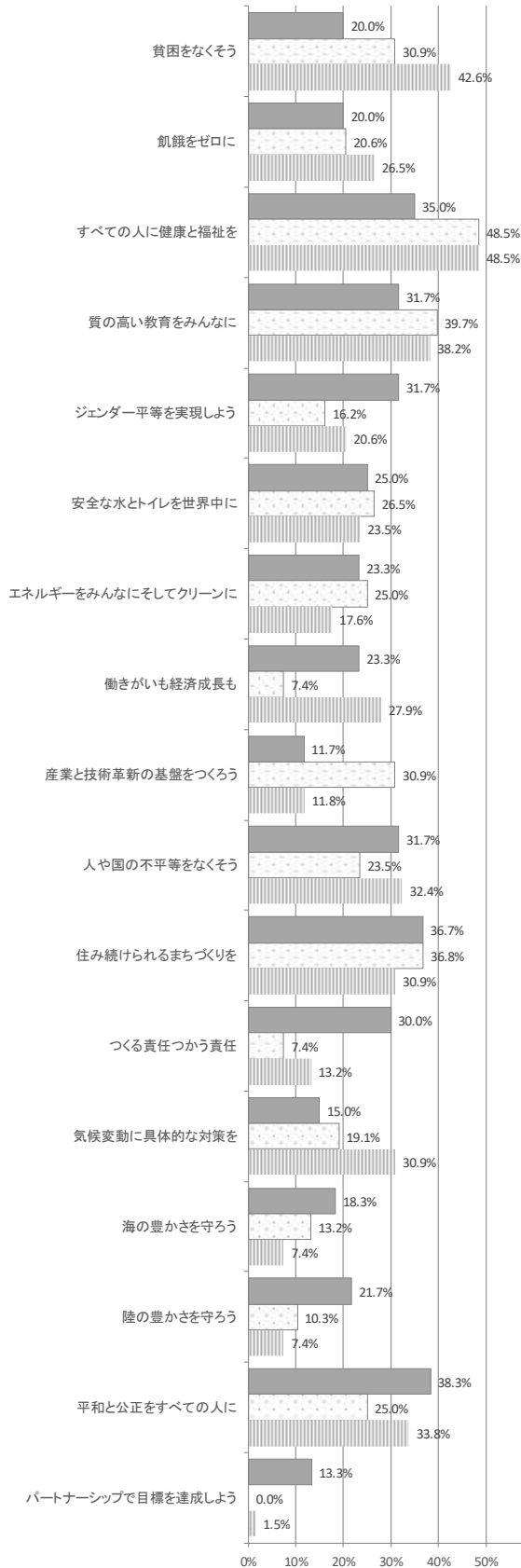
【10代+20代】

【30代】



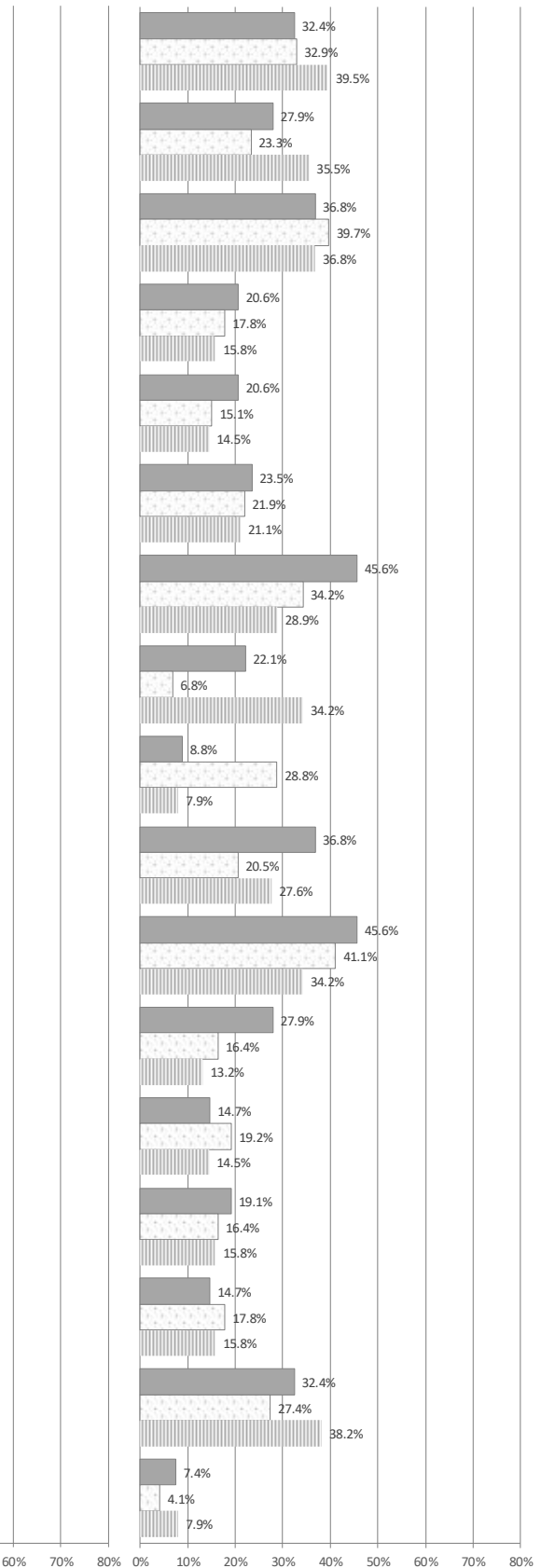
## 【40代】

- 取り組んでいる、または取り組みたいと考えている目標
- 関心がある目標
- ▨ 重要だと思ふ目標



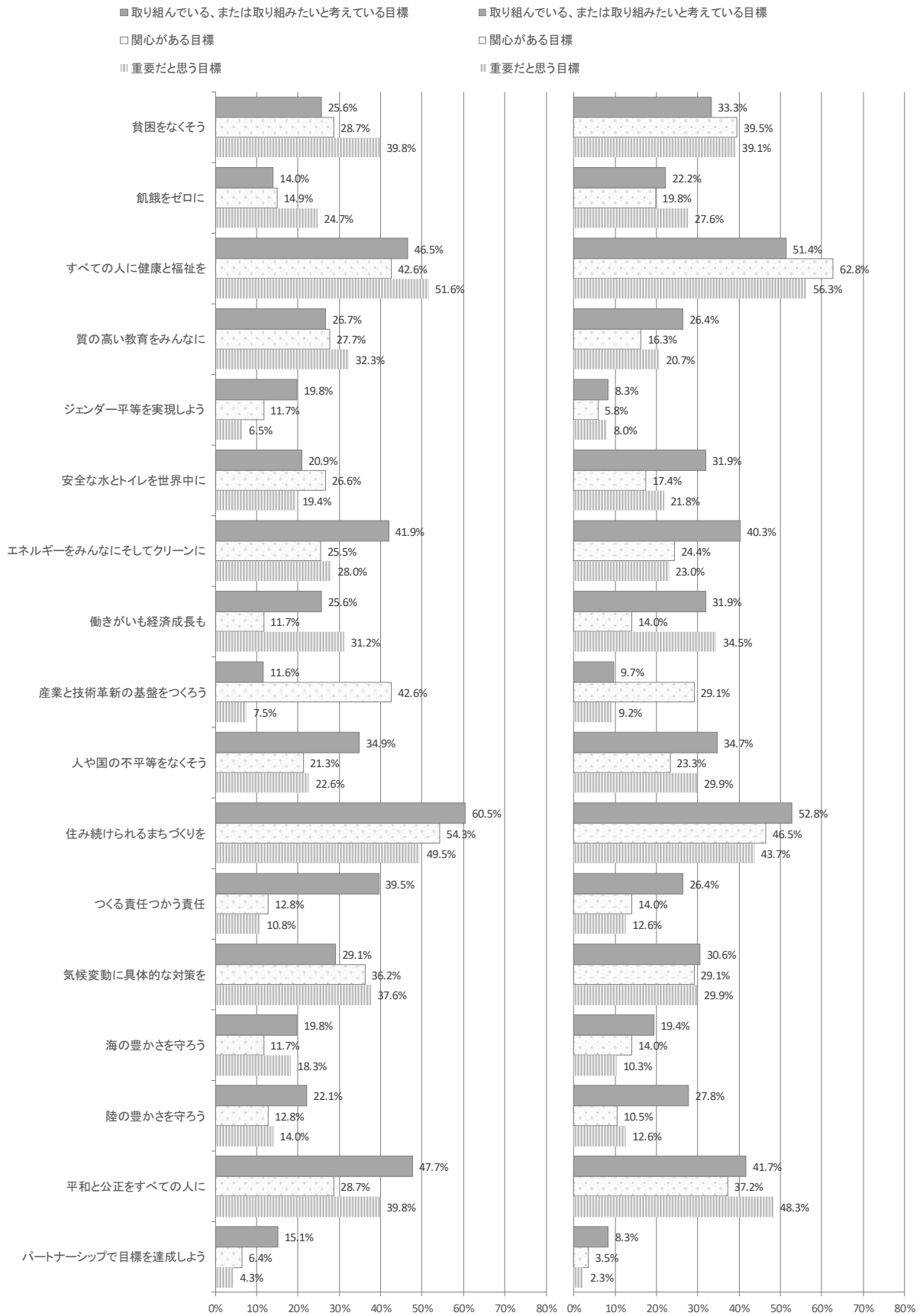
## 【50代】

- 取り組んでいる、または取り組みたいと考えている目標
- 関心がある目標
- ▨ 重要だと思ふ目標

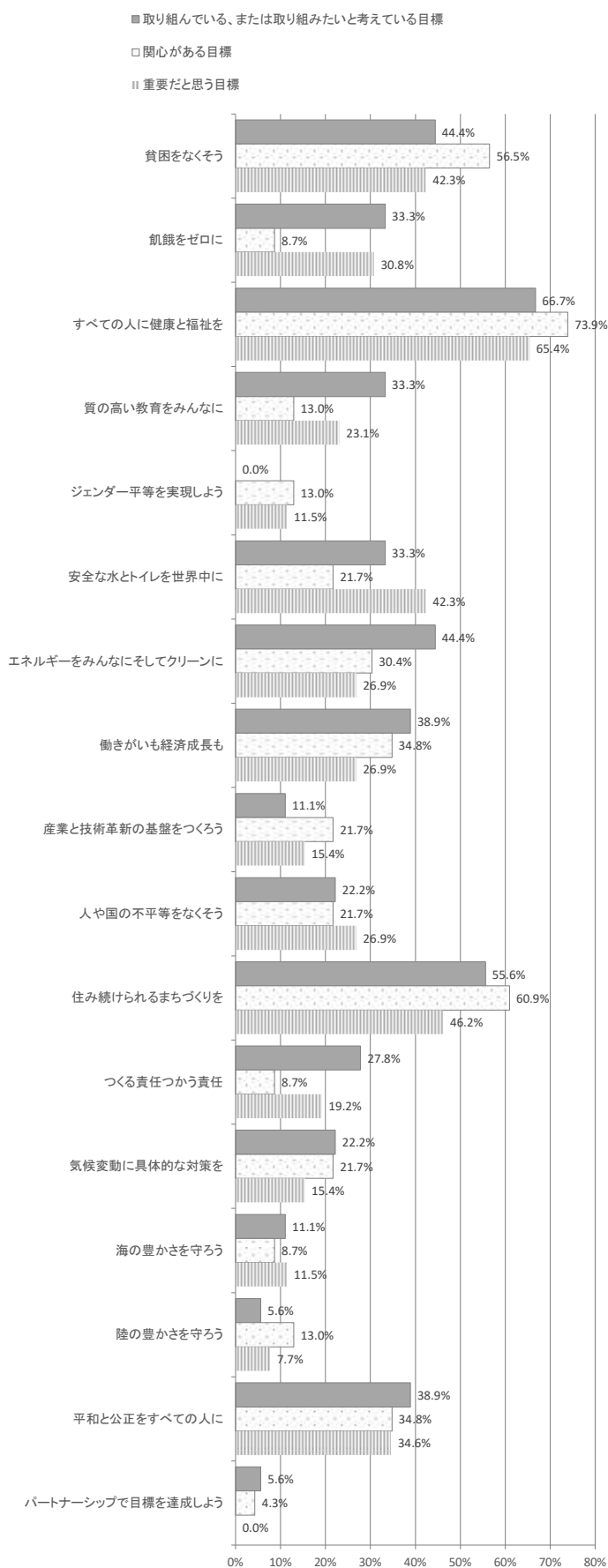


【60代】

【70代】

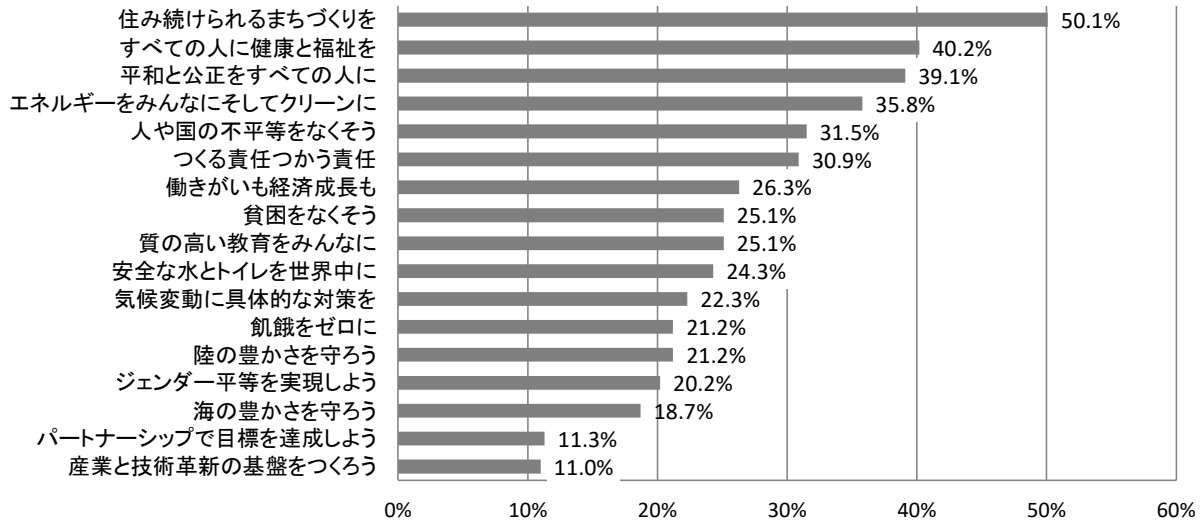


## 【80代】

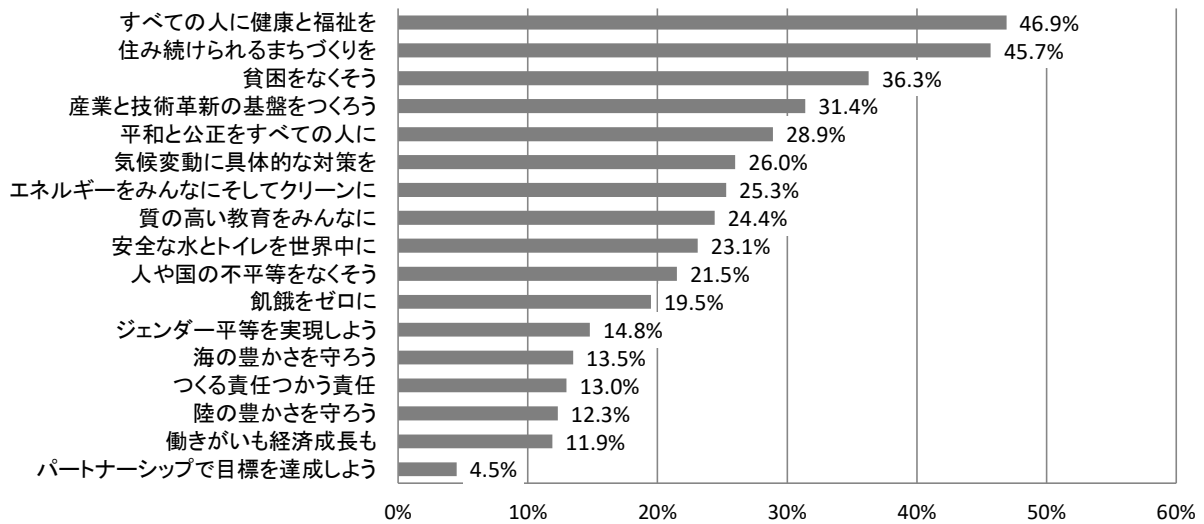


■ 目標別（割合順）

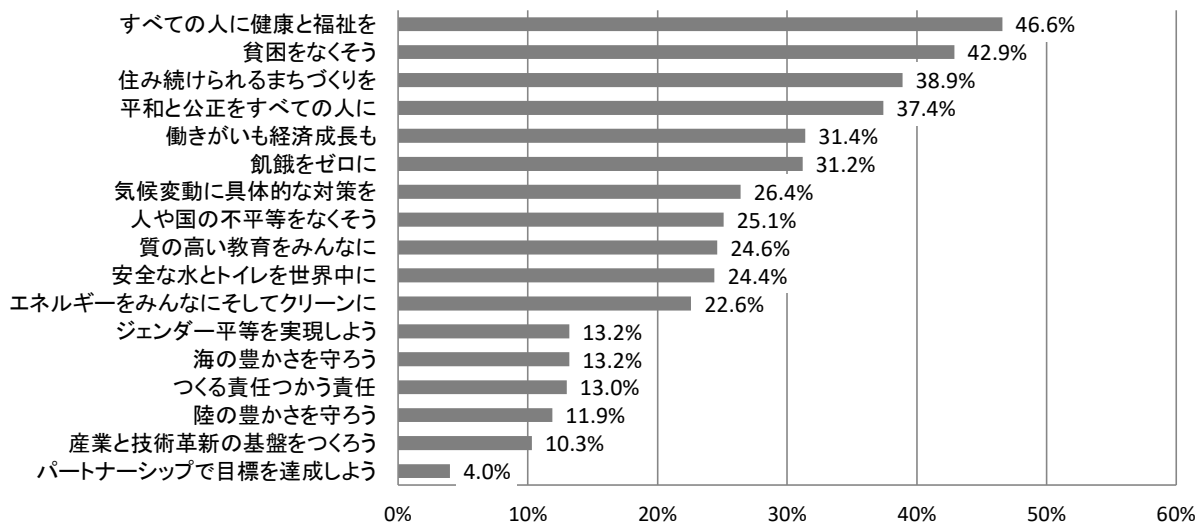
取り組んでいる、または取り組みたいと考えている目標



関心がある目標



重要だと思う目標

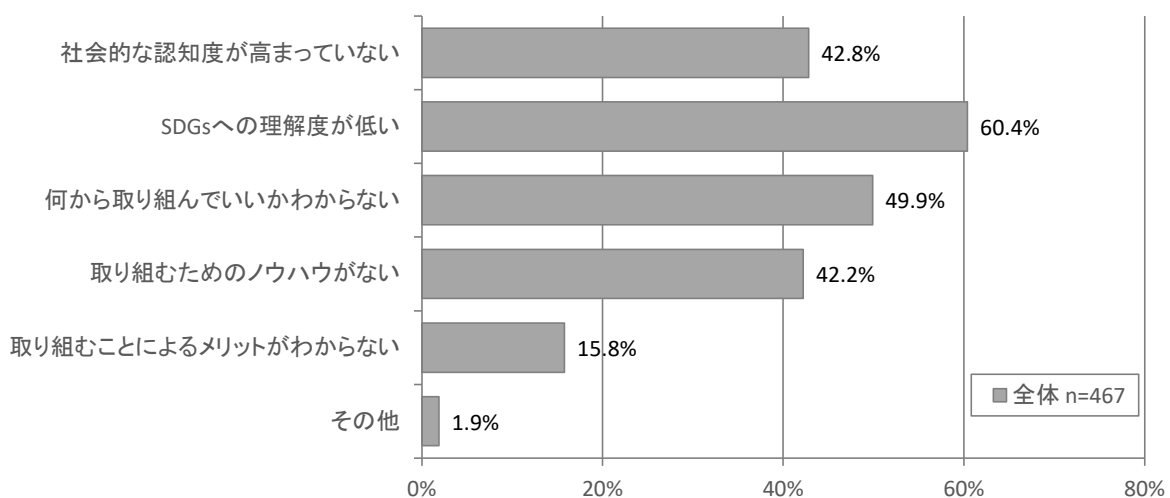




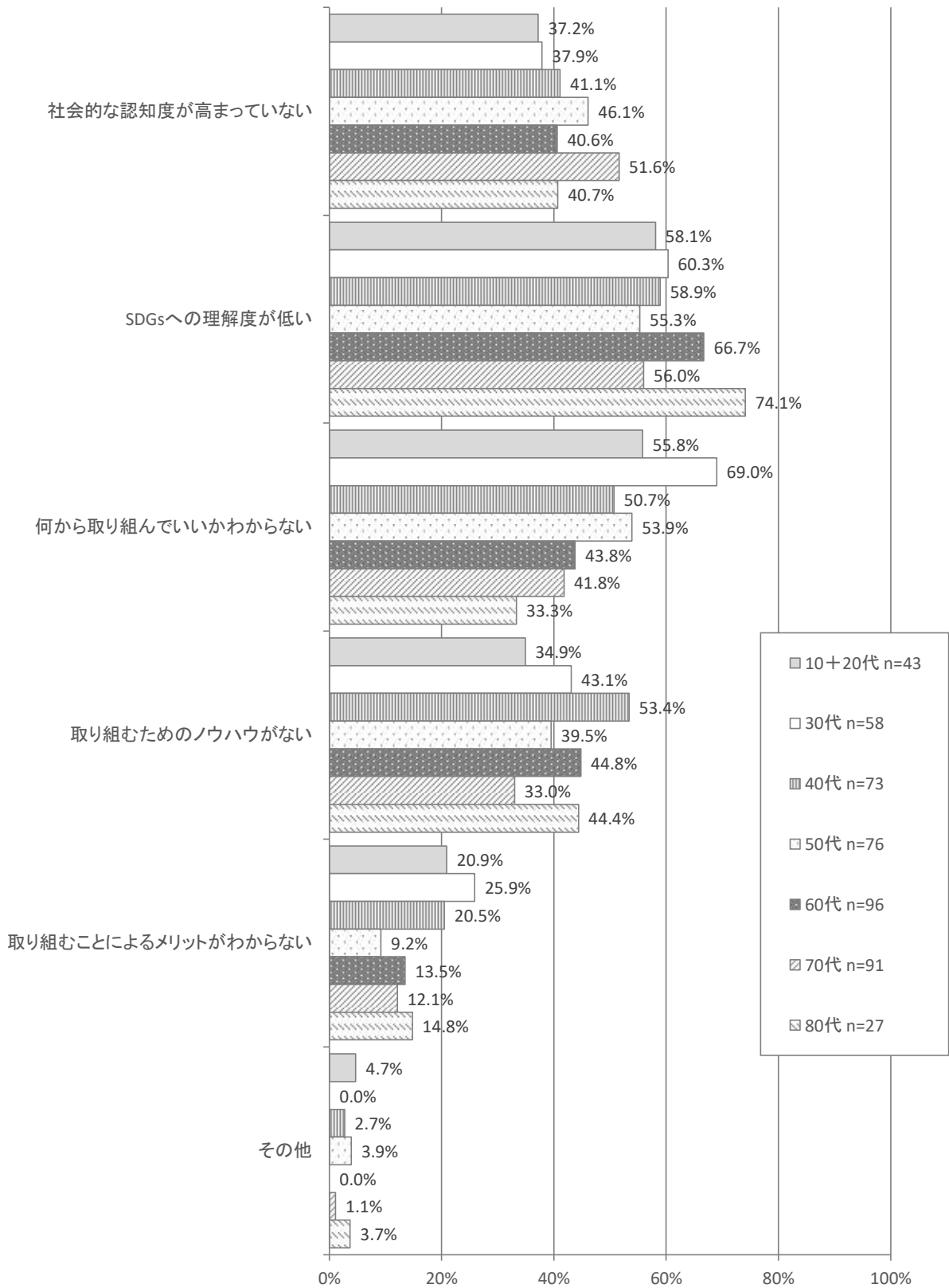
**【問5】SDGsを推進していく上での課題は何だと思いますか。（複数回答可）**

- 全体では、「SDGsへの理解度が低い」が60.4%で最も高く、次いで「何から取り組んでいいかわからない」が49.9%、「社会的な認知度が高まっていない」と「取り組むためのノウハウがない」がほぼ同割合で約42%となっている。
- 年代別で見ると、30代以外で「SDGsへの理解度が低い」が最も高くなっており、80代では74.1%となっている。30代では「何から取り組んでいいかわからない」が最も高く、69.0%となっている。また、50代以下で「何から取り組んでいいかわからない」、40代以下で「取り組むことによるメリットがわからない」が高くなっている
- 問2の関心度別で見ると、「社会的な認知度が高まっていない」については、関心が「ある」と回答した方の割合が比較的高くなっている。また、「SDGsへの理解度が低い」については、関心度が上昇するほど高く、「取り組むことによるメリットがわからない」では、関心度が低下するほど低くなっており、「何から取り組んでいいかわからない」では関心が薄い層の割合が高い。
- 問3の取組状況別で見ると、「積極的に取り組んでいる」と回答した方では「社会的な認知度が高まっていない」と「SDGsへの理解度が低い」が57.1%で、最も高くなっている。また、「ある程度取り組んでいる」「取り組んでいないし、今後取り組む予定もない」と回答した方も「SDGsへの理解度が低い」が最も高く、特に「ある程度取り組んでいる」と回答した方は、66.7%で他の取組状況を大きく上回っている。「取り組んでいないが、今後取り組みたい」と回答した方では「何から取り組んでいいかわからない」が59.8%ととび抜けて高くなっている。「何から取り組んでいいかわからない」と「取り組むためのノウハウがない」は「積極的に取り組んでいる」と回答した方のみ低くなっている。「取り組むことによるメリットがわからない」は全体的に低くなっているが、「取り組んでいないし、今後取り組む予定もない」と回答した方の28.6%と、他の取組状況の2倍以上となっている。

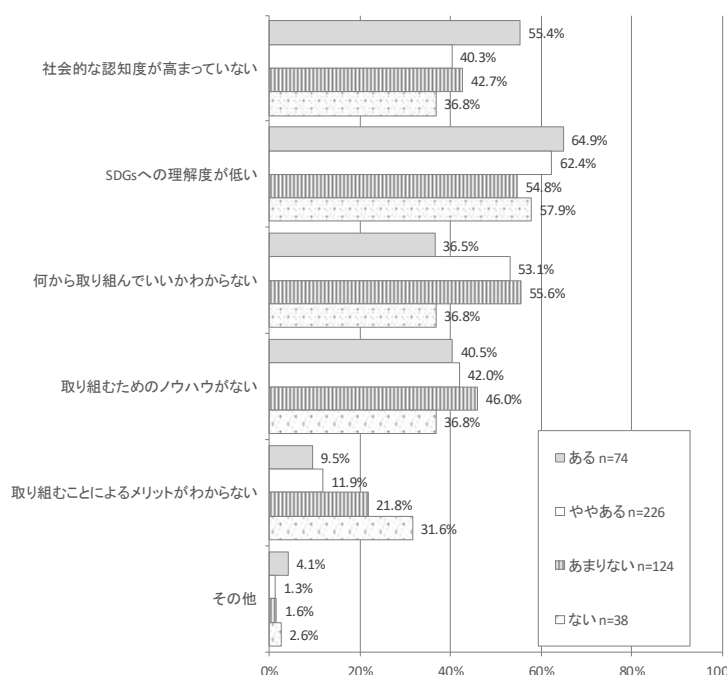
■全体



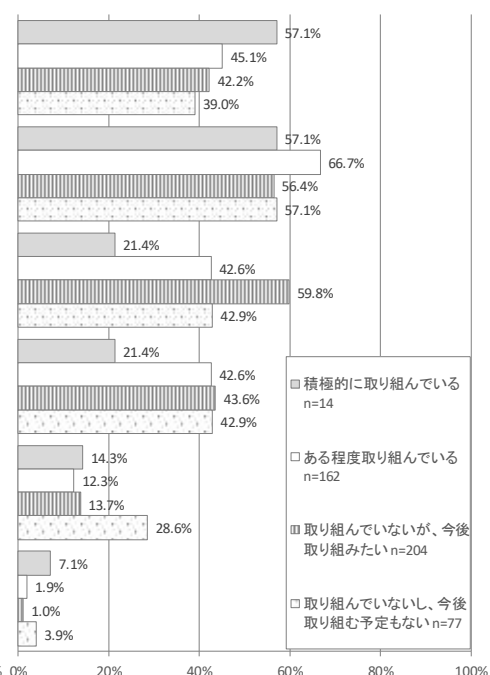
■年代別



## ■関心度（問2）別



## ■取組状況（問3）別



## ■その他の回答

- 個人の意識（50代／女性／大曲）
- 周知と理解の普及（50代／男性／大曲）
- 達成基準がわからないため、他人事にしてしまうことが多い。（10代／女性／中仙）
- 取り組むことによるデメリット。（10代／性別無回答／大曲）
- 地域で行うきっかけ作り（40代／女性／太田）
- 理想のみで現実が全く見えて無い（50代／男性／大曲）
- 当たり前の事として取り組める環境作り。今は無理に取り組まされている感覚がある。（40代／女性／大曲）

## ◆ 調査結果のまとめ及び今後の方針

○ 問1のSDGsの認知度については、22.2%の方がSDGsという言葉を知らないと回答しており、40代を境に年代が上がるにつれてその割合が高くなる傾向が見られ、80代では48.4%となっている。また、問2の結果から、関心が「ある」と回答した方のうち、SDGsを「知らない」と回答した方は1.3%であったのに対し、関心が「ない」と回答した方のうち、「知らない」と回答した方は79.6%となっており、関心度と認知度に正の相関関係が見られる。以上のことから、今後、より一層SDGsに対する認知度を向上させるため、特に高齢の方の的を絞った効果的な情報発信を行うとともに、市民の皆さまに関心を持っていただけるような方策を検討する。

○ 問3のSDGsへの取組状況については、「積極的に取り組んでいる」「ある程度取り組んでいる」を合わせた割合が37.5%、「取り組んでいないが、今後取り組みたい」が43.5%となっており、取り組む意欲のある方は81.0%となっている。年代別に見ると、10代から50代では取り組む意欲のある方は約9割となっている一方で、「取り組んでいないし、今後取り組む予定もない」と回答した方は60代で22.1%、70代で26.5%、80代では50%となっており、高齢の方ほど取り組む意欲がない方が多い傾向にある。

問5のSDGsを推進していく上での課題について、問2の関心度や問3の取組状況とクロス集計を行ったところ、関心度等により認識する課題に有意と思われる差異や一定の傾向が見られたことから、さらに分析を進めながら意識改革や行動変容を促すきっかけづくりや環境づくりに取り組んでいく。

○ 問4のSDGs17の目標については、目標によって取組度、関心度、重要度に差が生じており、自身にとって身近でないものほど割合が低くなっているものと推察される。こうした目標ごとの差を埋めていくこともSDGsを推進する重要な観点であることから、それぞれの目標を身近な行動に置き換え、具体例を示すなど、市民の皆さまにとってSDGsがより身近なものとなるための環境づくりを進めていく。

### 3.1.3 男女共同参画について

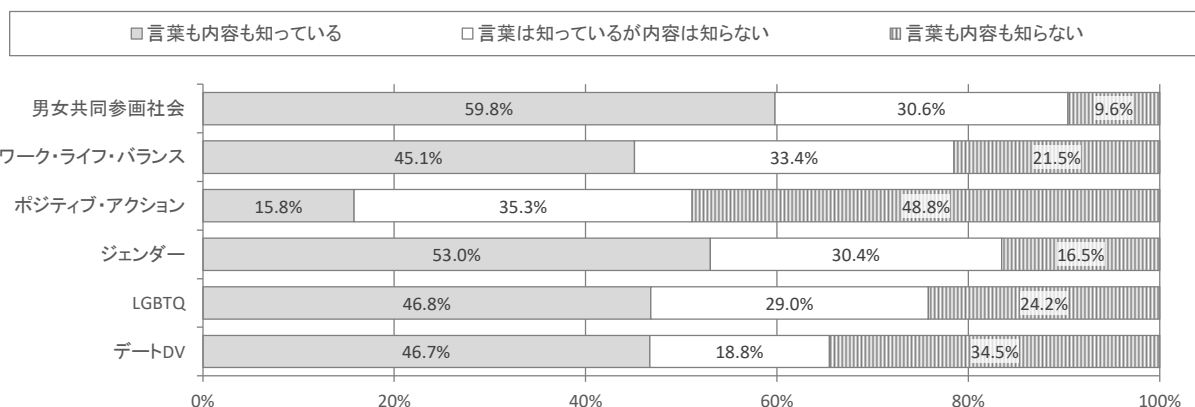
(企画部総合政策課)

- ◆ 調査目的: 調査票の記載のとおり、令和2年度からは「第3次大仙市男女共同参画プラン」のもと、「誰もがイキイキと『ともに輝く男女共同参画のまち』」を目指して、ワーク・ライフ・バランスや女性活躍の推進、DVやあらゆるハラスメントの防止、性的マイノリティに対する理解促進などに取り組んでいる。
- 本調査では、市民の皆さまから男女共同参画に関するお考えやご意見を伺い、今後、さらに男女共同参画を推進していくための参考とする。

#### 【問1】あなたは、男女共同参画に関する次の言葉を知っていますか。

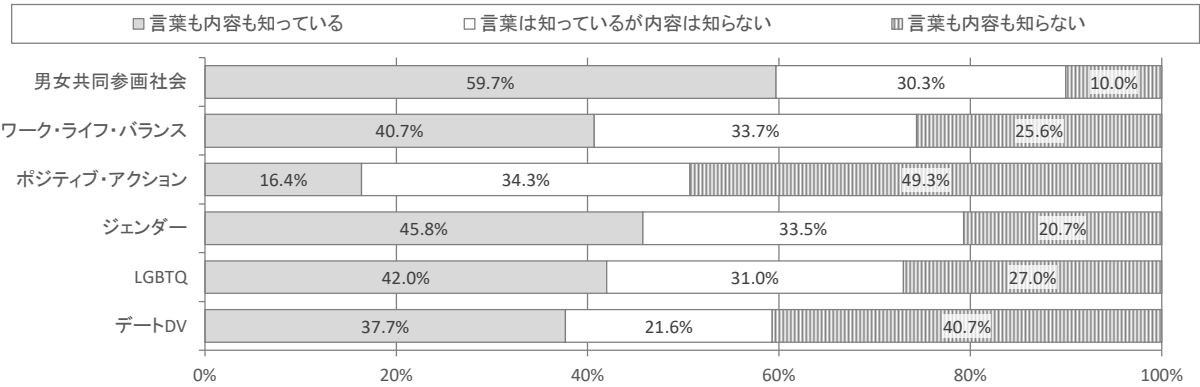
- 全体では、「言葉も内容も知っている」（以下、「知っている」）「言葉は知っているが内容は知らない。」（以下、「言葉は知っている」）を合わせた割合が最も高いのは『男女共同参画社会』で90.4%となっており、以下、『ジェンダー』『ワーク・ライフ・バランス』『LGBTQ』『デートDV』『ポジティブ・アクション』と続いている。最も認知度が低い『ポジティブ・アクション』は、約半数の方が「知らない」と回答している。
- 性別で見ると、「知っている」「言葉は知っている」を合わせた割合は全ての項目で女性が高くなっており、特に『デートDV』については、男性の59.3%に対し、女性は70.6%と11.3ポイント高くなっている。
- 年代別で見ると、割合の差はあるものの、80代を除いた年代で概ね同様の傾向となっているが、60代以上で『ジェンダー』と『LGBTQ』について「知らない」と回答した方の割合が高くなっている。80代は他の年代に比べ、『ワーク・ライフ・バランス』と『ポジティブ・アクション』について「知らない」と回答した方の割合が低くなっている。

#### ■全体

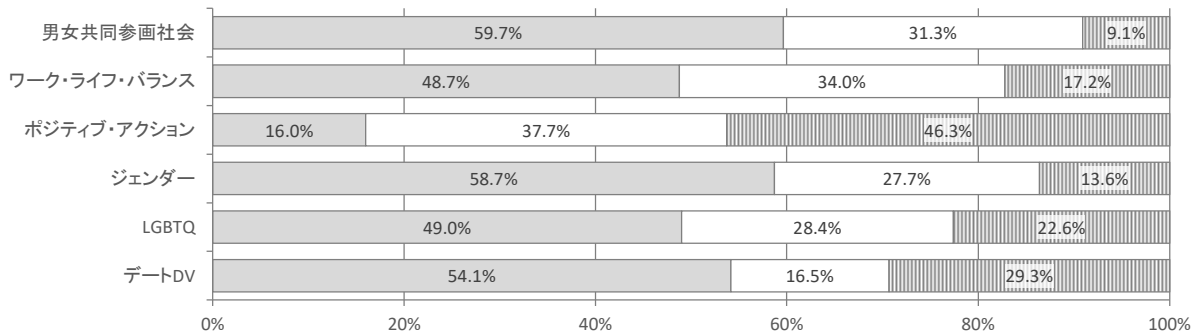


■性別

【男性】

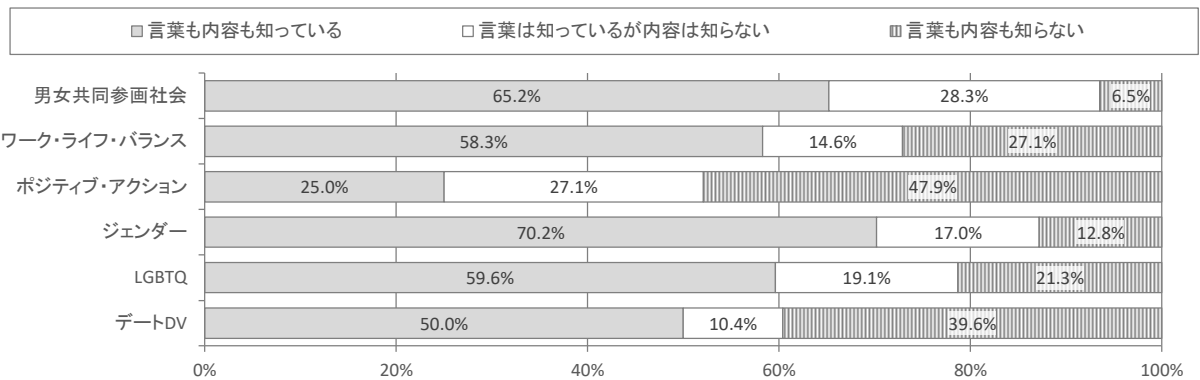


【女性】

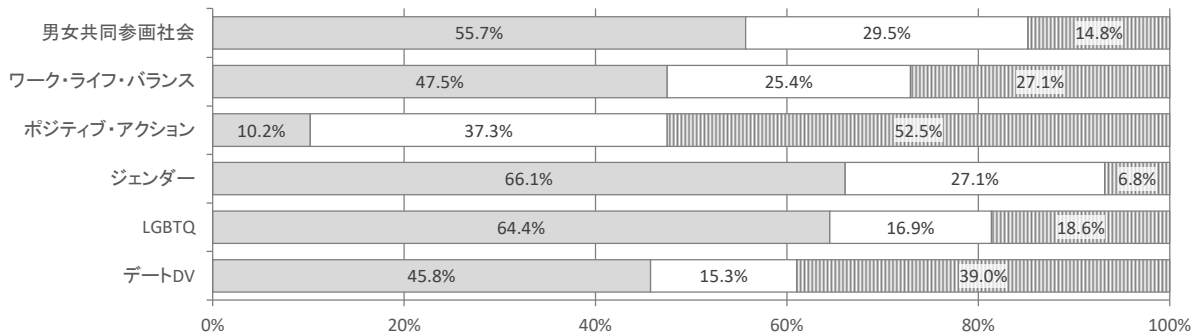


■年代別

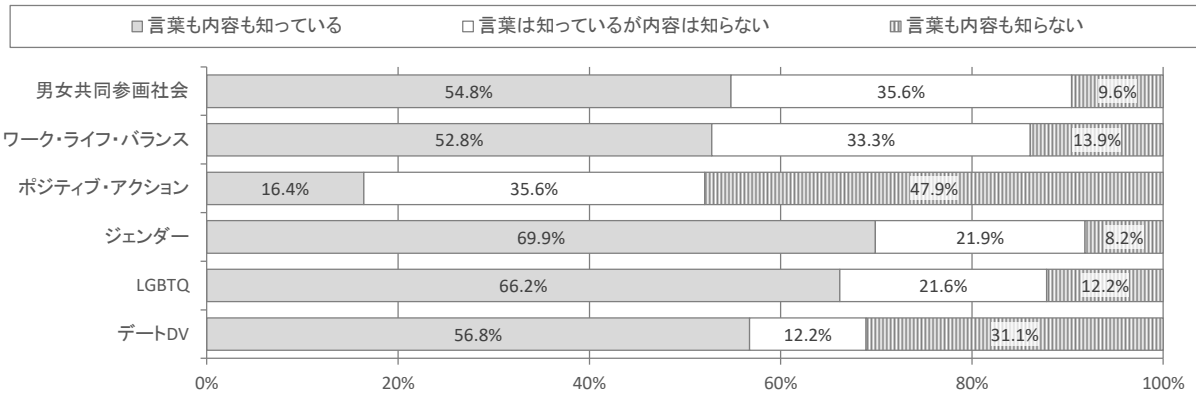
【10代+20代】



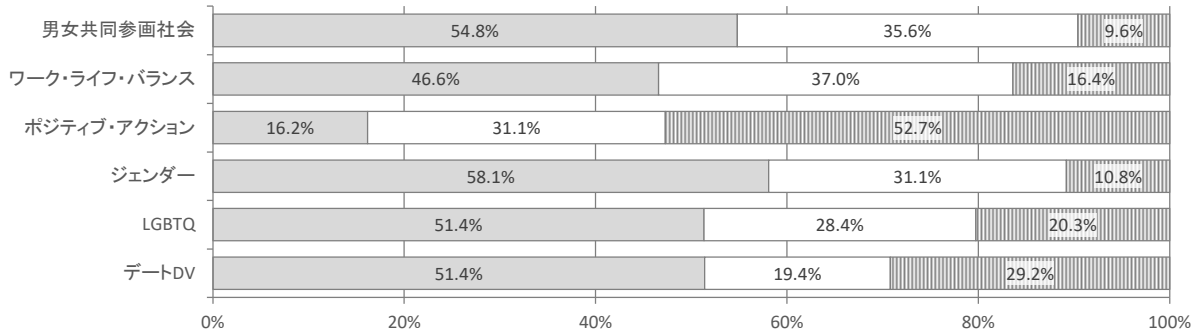
【30代】



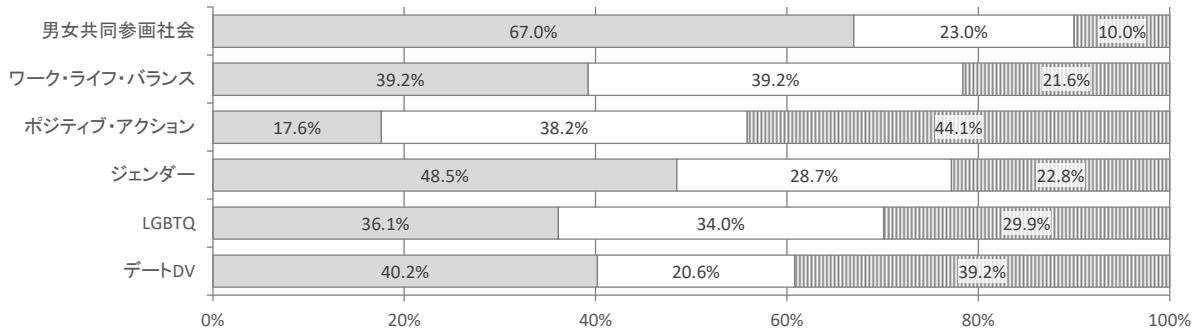
## 【40代】



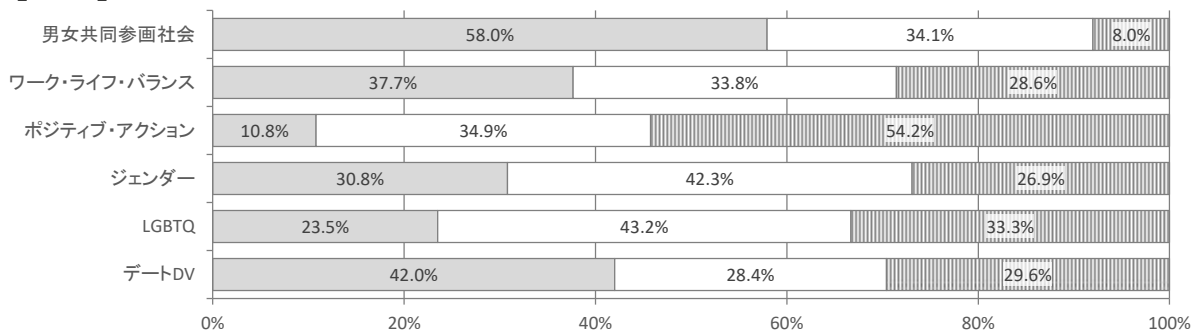
## 【50代】



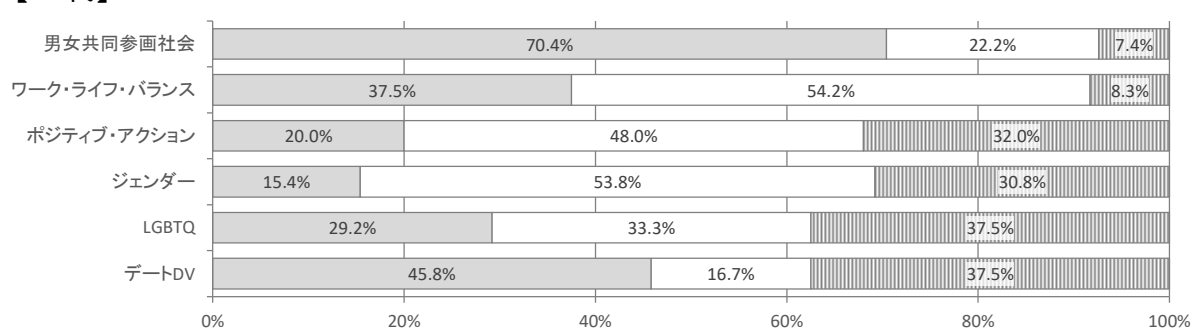
## 【60代】



## 【70代】



## 【80代】

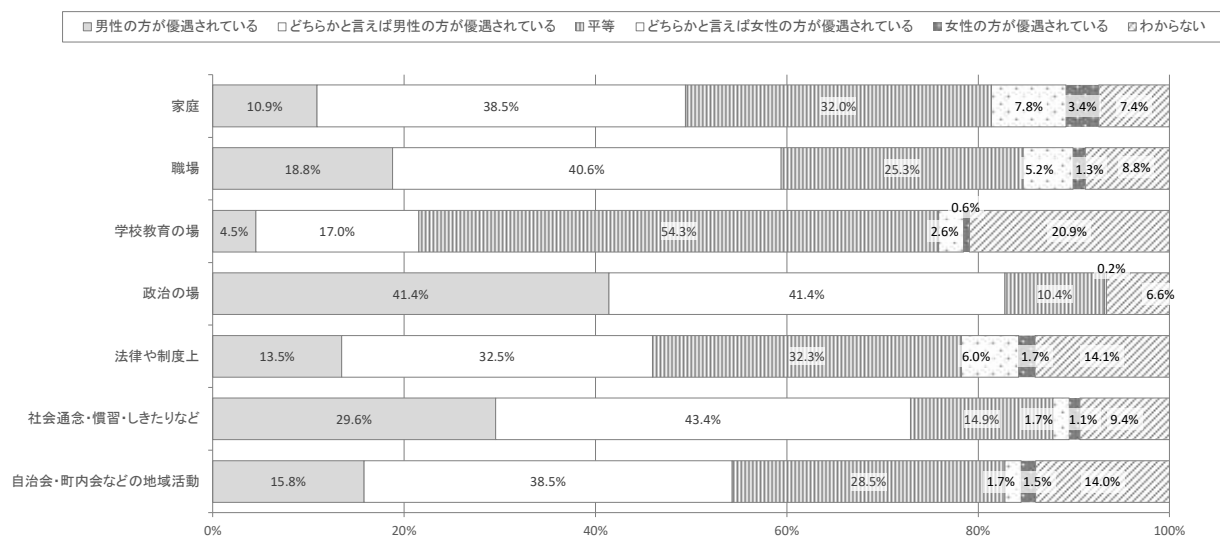


<b>【問2】あなたは、次のような分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。</b>
--

- 全体では、「男性の方が優遇されている」（以下、「男性」）「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」（以下、「どちらかと言えば男性」）を合わせた割合が、「女性の方が優遇されている」（以下、「女性」）「どちらかと言えば女性の方が優遇されている」（以下、「どちらかと言えば女性」）を全ての分野で上回っており、「男性」「どちらかと言えば男性」を合わせた割合が最も高いのは『政治の場』で82.8%となっている。
- 「女性」と「どちらかと言えば女性」を合わせた割合は全ての分野で低い傾向にあり、最も高い『家庭』でも11.2%となっている。
- 「平等」が最も高いのは『学校教育の場』で、54.3%となっており、唯一5割を超えている。次いで、『法律や制度上』が32.3%となっている。
- 性別で見ると、割合の差はあるものの、男性、女性ともに「男性」「どちらかと言えば男性」を合わせた割合は『政治の場』、「平等」は『学校教育の場』、「女性」「どちらかと言えば女性」を合わせた割合は『家庭』で、それぞれ最も高くなっており、全体、男性、女性と同様の傾向を示している。「男性」「どちらかと言えば男性」を合わせた割合は全ての分野で女性が高くなっている。特に『法律や制度上』では男性で37.1%、女性で54.8%と17.7ポイントの差が生じており、その分、「平等」の割合にも差が生じている。一方で、『学校教育の場』では男女の差が最も小さく、ほぼ同じ割合となっている。
- 年代別で見ると、70代以下では「男性」「どちらかと言えば男性」を合わせた割合が最も高いのは『政治の場』で、全年代で最も低い80代でも66.7%となっており、全年代において非常に高くなっている。80代では『職場』が最も高く、70.3%となっている。
- 全年代で「平等」が最も高いのは『学校教育の場』となっており、割合が最も高くなっている80代で65.2%、最も低い40代で45.2%となっている。
- 「女性」「どちらかと言えば女性」を合わせた割合は、10代と20代を合わせた年代、30代で『法律や制度上』、40代から70代で『家庭』、80代で『社会通念・慣習・しきたりなど』が最も高くなっている。割合が最も高くなっているのは、10代と20代を合わせた年代の『法律や制度上』で20.9%となっている。一方で、50代と60代では1割を超えている分野はなく、特に低い傾向にあり、50代と60代で最も高い『家庭』でもそれぞれ6.8%、5.0%にとどまっている。

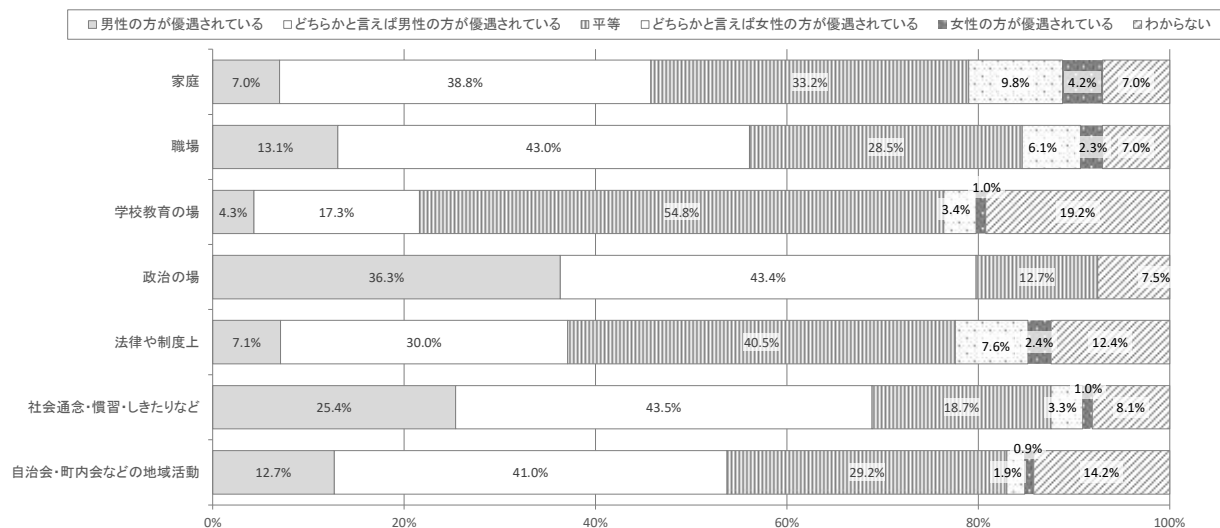


## ■全体

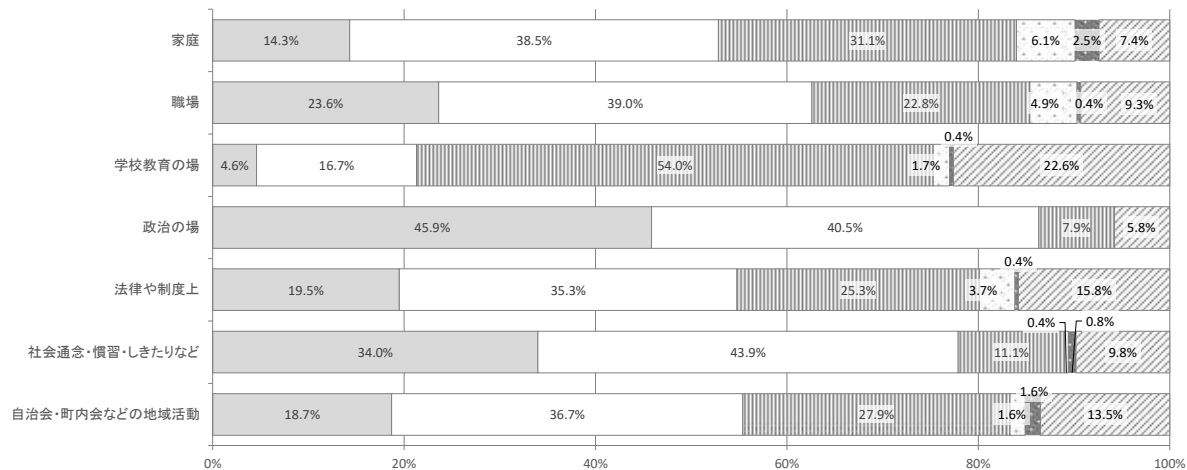


## ■性別

### 【男性】

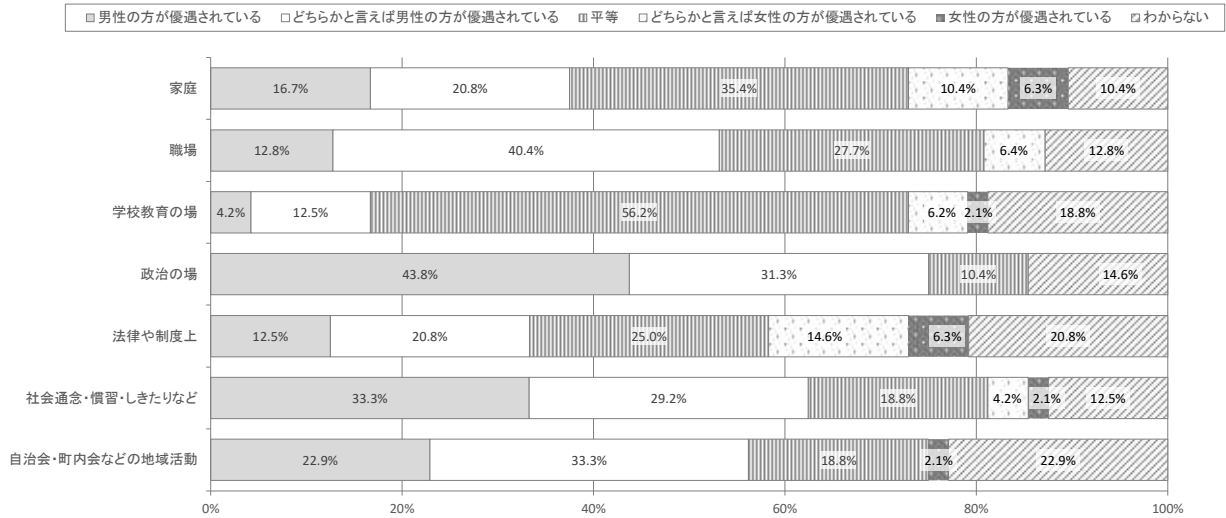


### 【女性】

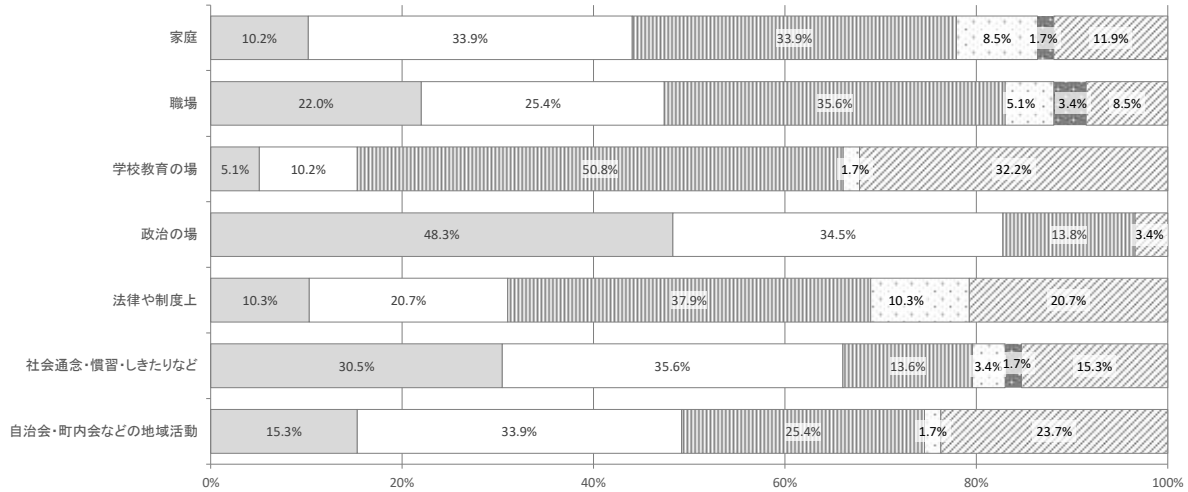


■年代別

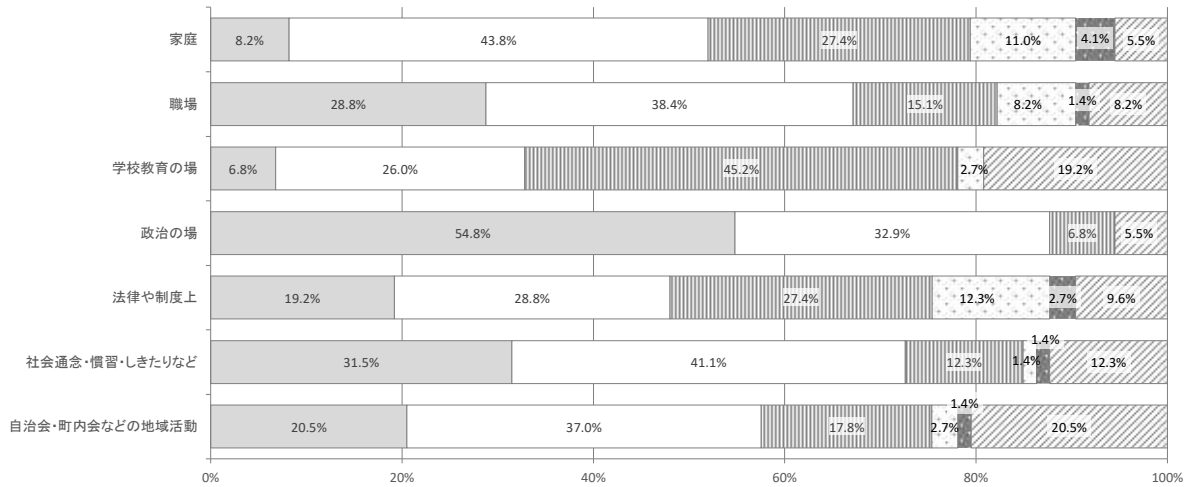
【10代+20代】



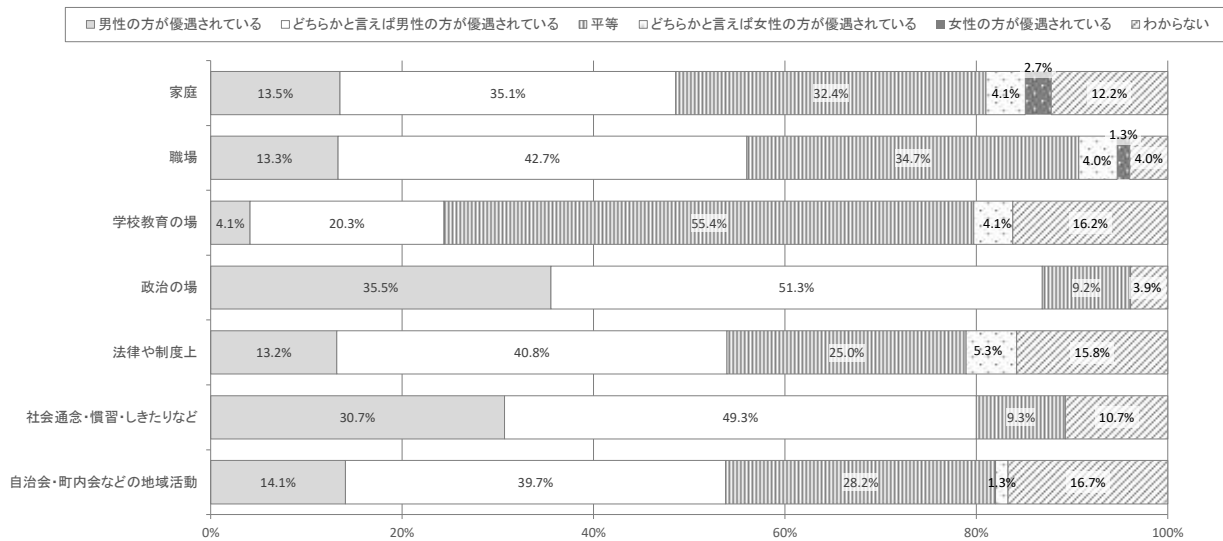
【30代】



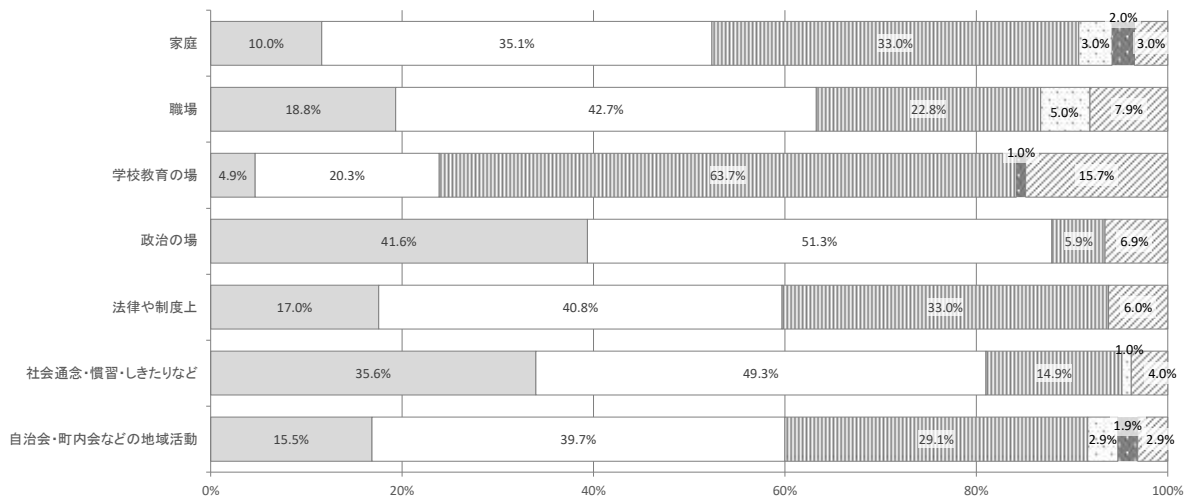
【40代】



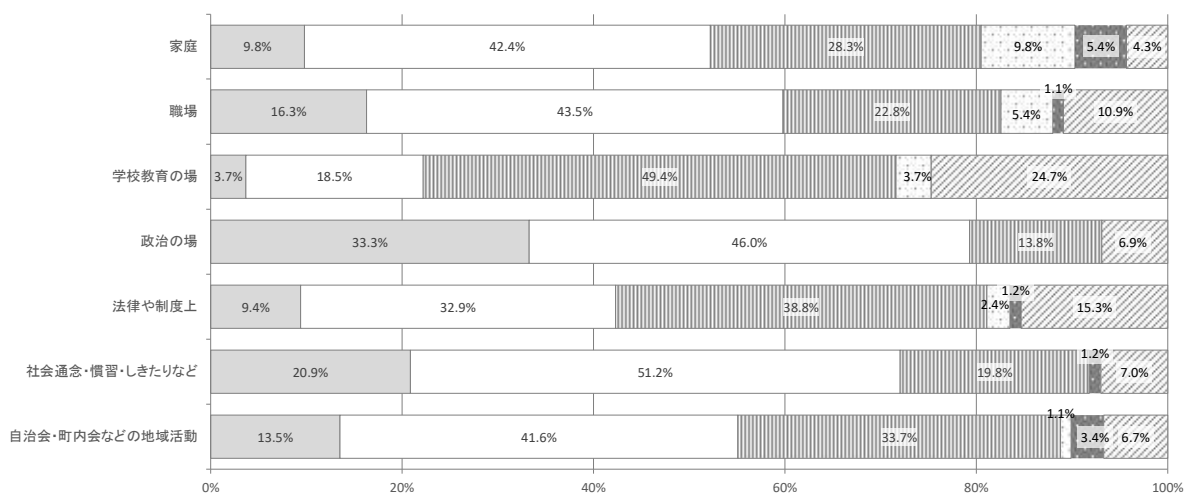
## 【50代】



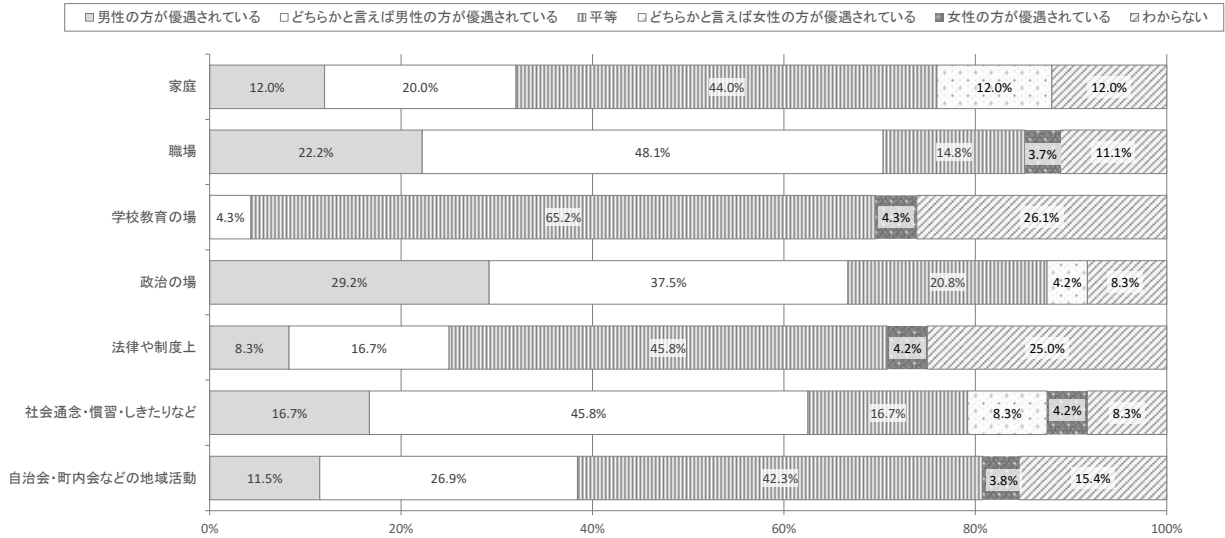
## 【60代】



## 【70代】



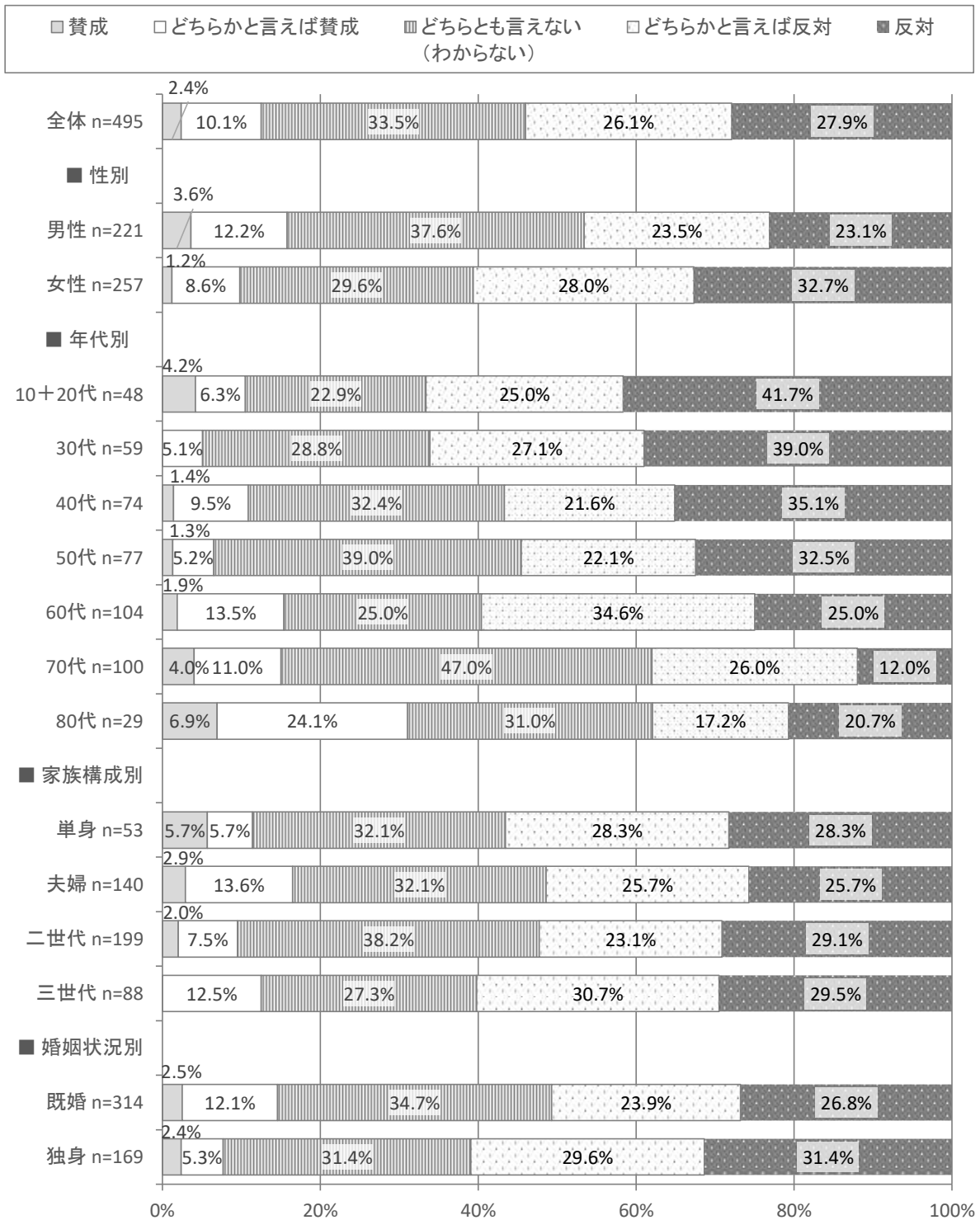
【80代】



【問3】あなたは、次の考え方をどう思いますか。

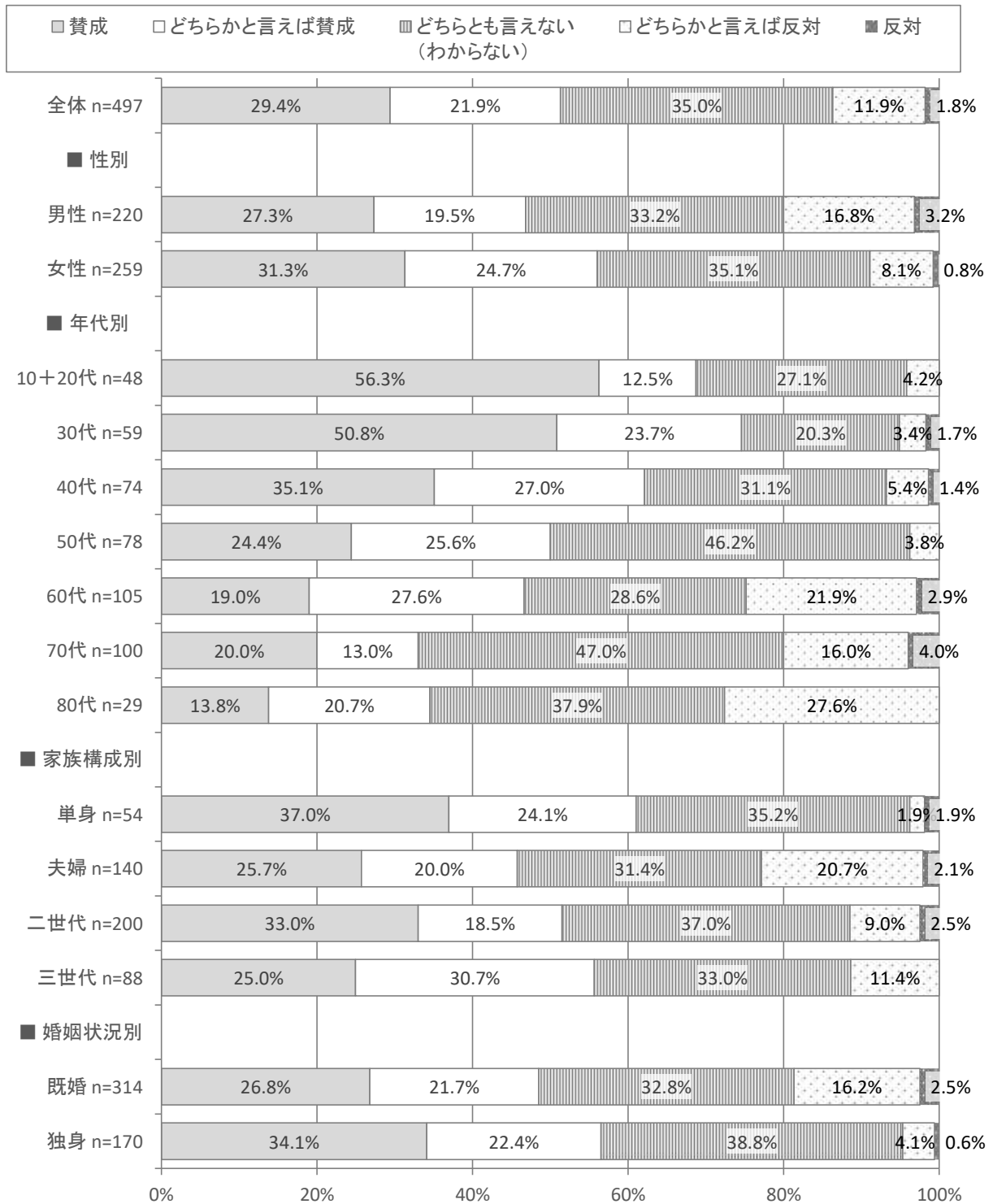
■「男性は仕事、女性は家庭」

- 全体では、「どちらとも言えない（わからない）」が33.5%で最も高いが、「反対」「どちらかと言えば反対」を合わせると54.0%で、程度を問わず反対の割合は5割を超えている。一方で、「賛成」「どちらかと言えば賛成」を合わせた割合は12.5%にとどまっている。
- 性別で見ると、「反対」「どちらかと言えば反対」を合わせた割合は、男性が46.6%、女性が60.7%で女性が14.1ポイント高く、程度を問わず反対の割合が高くなっている。その分、「賛成」「どちらかと言えば賛成」「どちらとも言えない（わからない）」は男性が高くなっている。
- 年代別で見ると、40代以下では「反対」が最も高く、年代が下がるにつれて高くなる傾向にある。また、50代、70代、80代では「どちらとも言えない（わからない）」、60代では「どちらかといえば反対」が最も高くなっているが、「反対」「どちらかと言えば反対」を合わせると、60代以下では5割を超えている。一方で、70代では38.0%、80代では37.9%となっており、大きな差が生じている。  
 全年代で「賛成」は低い傾向にあり、最も高い80代でも6.9%だが、「どちらかと言えば賛成」を合わせると31.0%となり、「どちらとも言えない（わからない）」と同割合となっている。
- 家族構成別で見ると、大きな差異は無いが、単身世帯と三世帯世帯で「反対」「どちらかと言えば反対」を合わせた割合がやや高くなっている。また、三世帯世帯のみ「どちらとも言えない（わからない）」が30%を下回っており、27.3%となっている。
- 婚姻状況別で見ると、「賛成」「どちらかと言えば賛成」を合わせた割合は既婚で14.6%、独身で7.7%となっており、既婚が6.9ポイント高く、「反対」「どちらかと言えば反対」を合わせた割合は、既婚が50.7%、独身が61.0%で独身が10.3ポイント高くなっている。



**■結婚は個人の自由であるから、してもしなくてもどちらでもよい**

- 全体では、「どちらとも言えない（わからない）」が35.0%で最も高いが、「賛成」「どちらかと言えば賛成」を合わせると51.3%となっており、程度を問わず賛成の割合が高くなっている。一方で、「反対」「どちらかと言えば反対」を合わせた割合は13.7%にとどまっている。
- 性別で見ると、「賛成」「どちらかと言えば賛成」を合わせた割合は男性が46.8%、女性が56.0%で女性が9.2ポイント高く、程度を問わず賛成の割合が高くなっている。一方で、「反対」「どちらかと言えば反対」を合わせた割合は男性が20.0%、女性が8.9%で男性が11.1ポイント高くなっている。
- 年代別で見ると、40代以下では「賛成」が最も高く、年代が下がるにつれて高くなる傾向にある。50代以上では「どちらとも言えない（わからない）」が最も高くなっているが、「賛成」「どちらかと言えば賛成」を合わせると、50代と60代では「どちらとも言えない（わからない）」よりも高くなる。また、60代以上では「反対」「どちらかと言えば反対」を合わせた割合が2割以上となっており、60代以上と50代以下で差が生じている。
- 家族構成別で見ると、単身世帯では「賛成」「どちらかと言えば賛成」を合わせた割合が61.1%で最も高く、夫婦世帯では45.7%で最も低くなっている。一方で、「反対」「どちらかと言えば反対」を合わせた割合は夫婦世帯が22.8%で最も高く、単身世帯が3.8%で最も低くなっている。
- 婚姻状況別で見ると、「賛成」「どちらかと言えば賛成」を合わせた割合は既婚が48.5%、独身が56.5%で独身が8.0ポイント高くなっており、「反対」「どちらかと言えば反対」を合わせた割合は既婚が18.7%、独身が4.7%で既婚が14.0ポイント高くなっている。

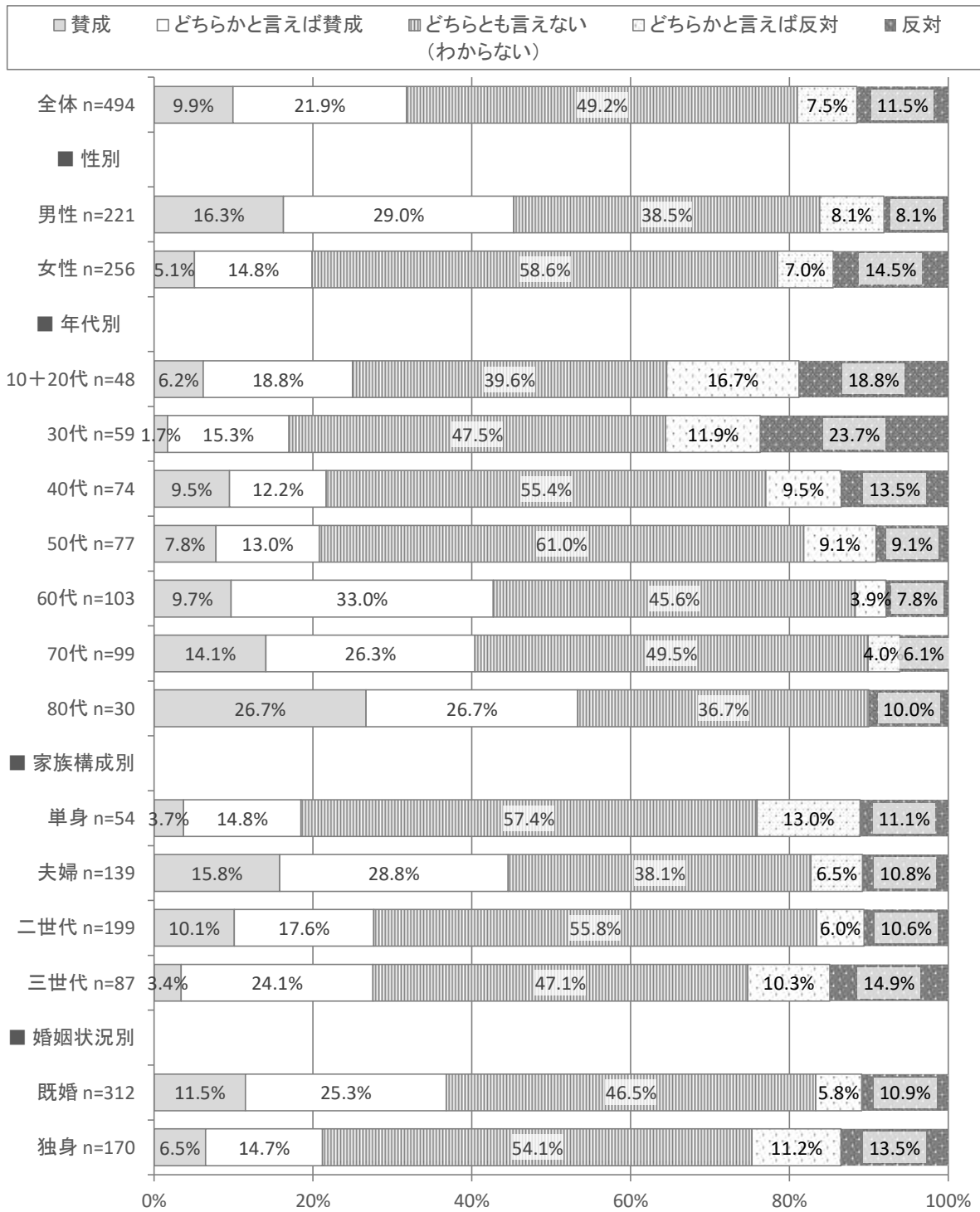




### ■結婚をしたら子どもを持つべきである

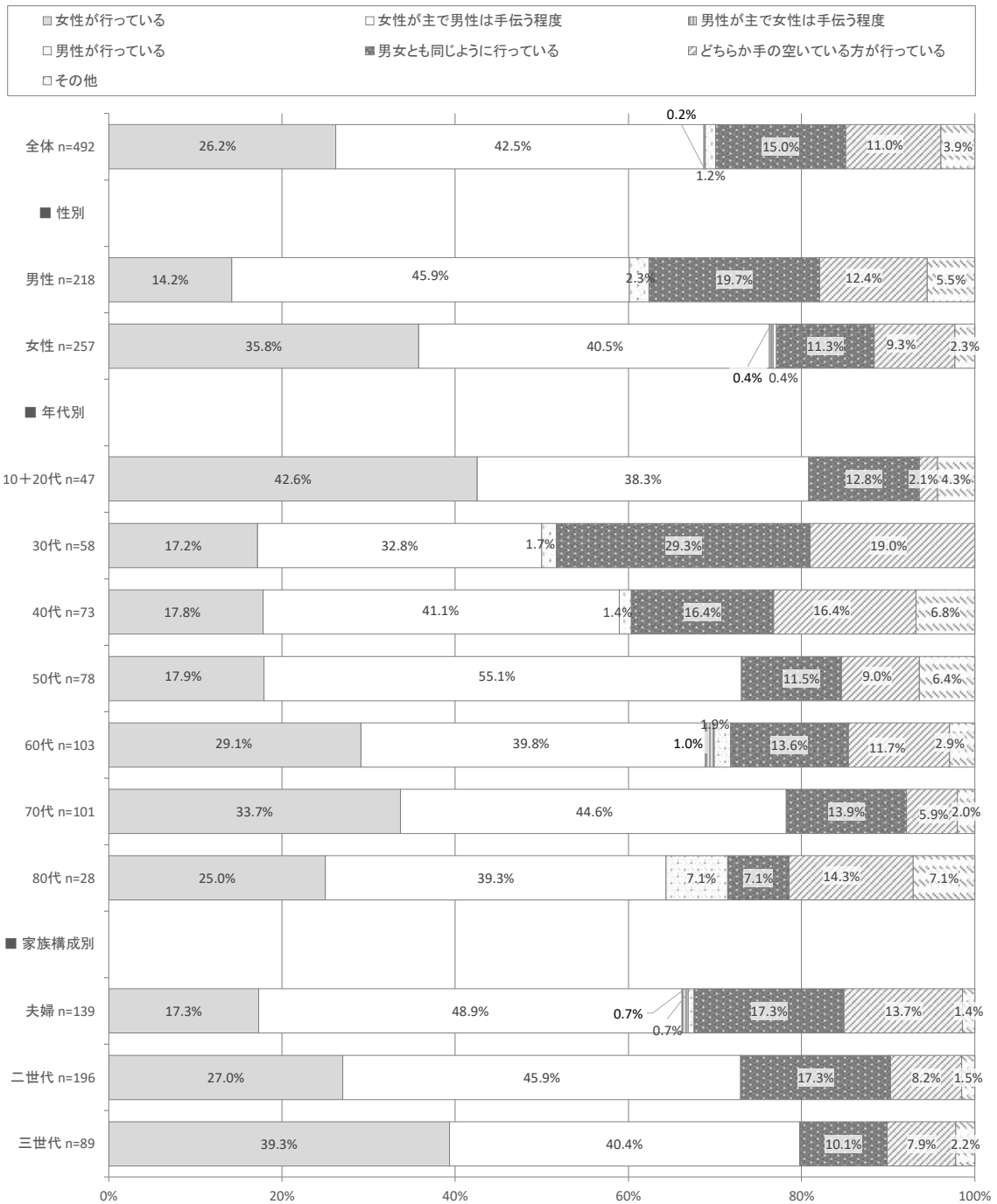
- 全体では、「どちらとも言えない（わからない）」の割合が 49.2%で最も高く、また、「賛成」「どちらかと言えば賛成」を合わせた割合が 31.8%、「反対」「どちらかと言えば反対」を合わせた割合が 19.0%となっている。
- 性別で見ると、男性、女性ともに「どちらとも言えない（わからない）」が最も高いが、男性が 38.5%、女性が 58.6%で女性が 20.1 ポイント高くなっている。また、男性は「賛成」「どちらかと言えば賛成」を合わせた割合が 45.3%で「どちらとも言えない（わからない）」よりも高くなっており、女性の 19.9%を 25.4 ポイント上回っている。また、女性は「反対」「どちらかと言えば反対」を合わせた割合が 21.5%で「賛成」「どちらかと言えば賛成」を合わせた割合よりもやや高くなっている。
- 年代別で見ると、全年代で「どちらとも言えない（わからない）」が最も高くなっているが、80代では「賛成」「どちらかと言えば賛成」を合わせると 53.4%となり、「どちらとも言えない（わからない）」よりも高くなっている。また、「賛成」「どちらかと言えば賛成」を合わせた割合は、50代以下では2割前後、60代以上では4割以上となっており、大きな差が生じている。「反対」は30代が最も高く、23.7%で、「どちらかと言えば反対」を合わせると 35.6%となっている。また、10代と20代を合わせた年代も 35.5%でほぼ同じ割合になっており、年代が下がるにつれて高くなる傾向にある。
- 家族構成別で見ると、全家族構成で「どちらとも言えない（わからない）」が最も高くなっているが、夫婦世帯では「賛成」「どちらかと言えば賛成」を合わせると 44.6%で「どちらとも言えない（わからない）」よりも高くなっている。また、単身世帯と三世帯世帯では「反対」「どちらかと言えば反対」を合わせた割合が、夫婦世帯や二世帯世帯と比較するとやや高い傾向にある。
- 婚姻状況別で見ると、既婚、独身ともに「どちらとも言えない（わからない）」が最も高くなっている。また、「賛成」「どちらかと言えば賛成」を合わせた割合は既婚が 36.8%、独身が 21.2%、「反対」「どちらかと言えば反対」を合わせた割合は既婚で 16.7%、独身で 24.7%となっており、既婚は程度を問わず賛成が、独身は程度を問わず反対が高くなっている。





**【問4】あなたの家庭では、家事や育児、介護等をどのように分担していますか。**

- 全体では、「女性が主で男性は手伝う程度」（以下、「女性が主」）が42.5%で最も高く、次いで、「女性が行っている」が26.2%で、約7割が主に女性が行っていると回答している。一方で、「男性が行っている」は0.2%で最も低く、次いで、「男性が主で女性は手伝う程度」（以下、「男性が主」）が1.2%で2番目に低くなっており、主に男性が行っていると回答した方の割合は非常に低くなっている。また、「男女とも同じように行っている」（以下、「男女同じ」）が15.0%、「どちらか手の空いているほうが行っている」（以下、「手の空いている方」）が11.0%となっている。
- 性別で見ると、男性、女性ともに「女性が主」が最も高くなっているが、「女性が行っている」が男性では14.2%、女性では35.8%となっており、女性が21.6ポイント高くなっている。また、「男女同じ」「手の空いている方」を合わせた割合は男性が32.1%、女性が20.6%で男性が11.5ポイント高くなっている。
- 年代別で見ると、30代以上では「女性が主」が全年代で3割を超えており、最も高くなっている。10代と20代を合わせた年代では「女性が行っている」が42.6%で最も高くなっている。また、30代では「男女同じ」が29.3%、「手の空いている方」が19.0%でどちらも全年代の中で最も高い割合となっており、2つを合わせた割合は48.3%で約5割が性別に関わらず家事等を行っている。
- 家族構成別で見ると、全家族構成で「女性が主」が40%を超えて最も高くなっており、「女性が行っている」が2番目に高くなっている。また、「女性が行っている」は世代が増えるにつれ、高くなる傾向にある。一方で、「男女同じ」「どちらか手の空いている方」を合わせた割合は世代が増えるにつれ、低くなる傾向にある。なお、単身世帯は必然的に世帯主が家事等を行うことになるため比較から除いている。



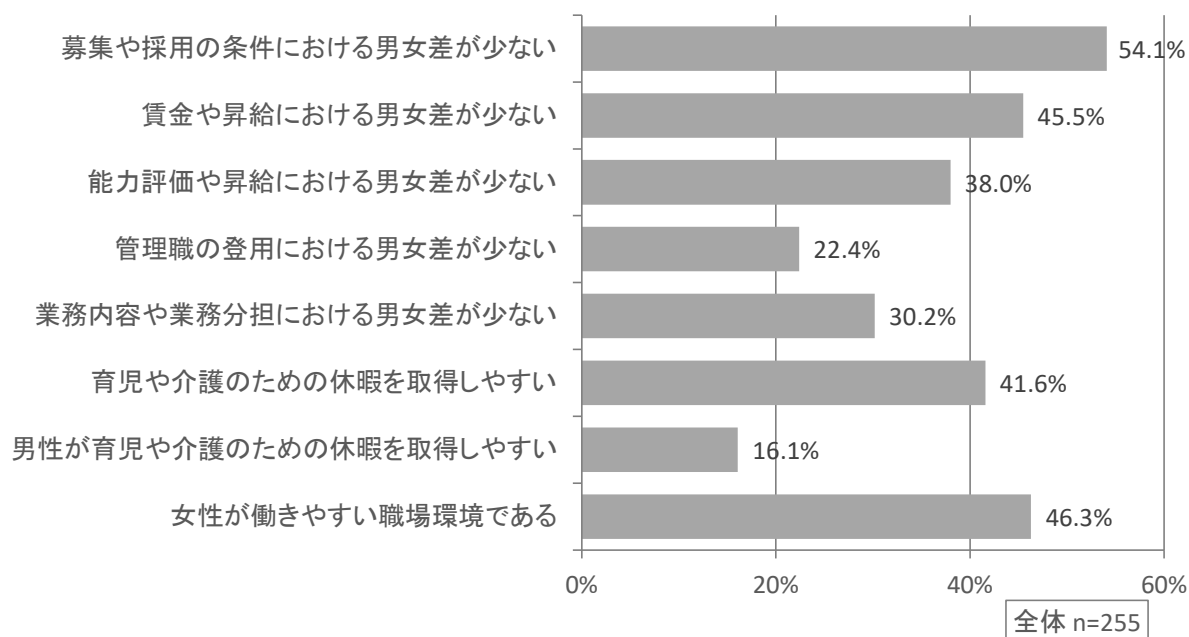
### ■その他の回答

- 1人暮らしである。(複数名)
- その時々。(50代/男性/大曲/二世帯世帯)
- 男がない。(60代/女性/太田/三世帯世帯)
- 妻の体調が悪く、自分一人で行っている。(80代/男性/大曲/夫婦世帯)
- 部分的に分けて得意・不得意により行っている。(40代/男性/中仙/三世帯世帯)
- 家事は分担し、育児はその時々で手の空いている方、または、子どもに指名された方が行っている。(20代/女性/大曲/二世帯世帯)

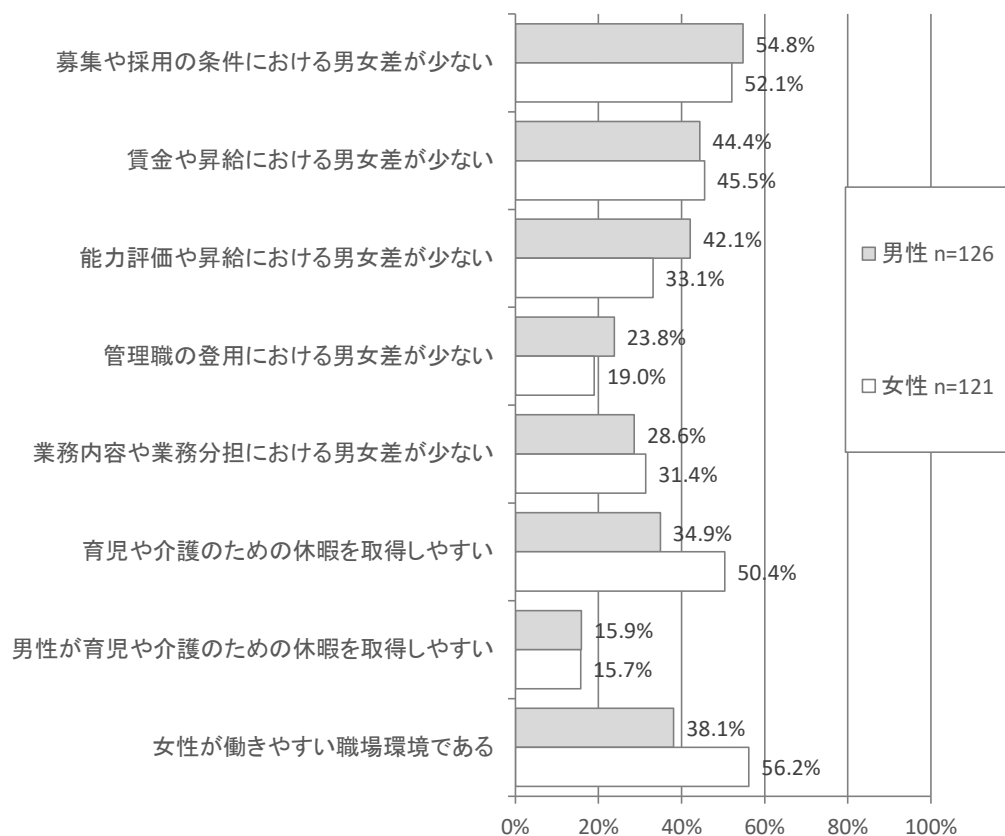
**【問5】あなたの職場における男女共同参画や女性活躍に関する状況について教えてください。**  
(複数回答可)

- 全体では、「募集や採用の条件における男女差が少ない」が54.1%で最も高く、次いで、「女性が働きやすい職場環境である」が46.3%、「賃金や昇給における男女差が少ない」が45.5%となっている。一方、最も低いのは「男性が育児や介護のための休暇を取得しやすい」で16.1%となっており、次いで、「管理職の登用における男女差が少ない」が22.4%、「業務内容や業務分担における男女差が少ない」が30.2%となっている。
- 性別で見ると、男性は「募集や採用の条件における男女差が少ない」が54.8%、女性は「女性が働きやすい職場環境である」が56.2%でそれぞれ最も高くなっている。「女性が働きやすい職場環境である」は男性では38.1%となっており、女性と18.1ポイントの差が生じている。また、「育児や介護のための休暇を取得しやすい」も同様の傾向で、男性の34.9%に対し、女性は15.5ポイント高い50.4%となっている。
- 年代別で見ると、30代と50代以上では「募集や採用の条件における男女差が少ない」が最も高く、10代と20代を合わせた年代と40代では「女性が働きやすい職場環境である」が最も高くなっている。一方、「男性が育児や介護のための休暇を取得しやすい」は全ての年代で最も低くなっている。

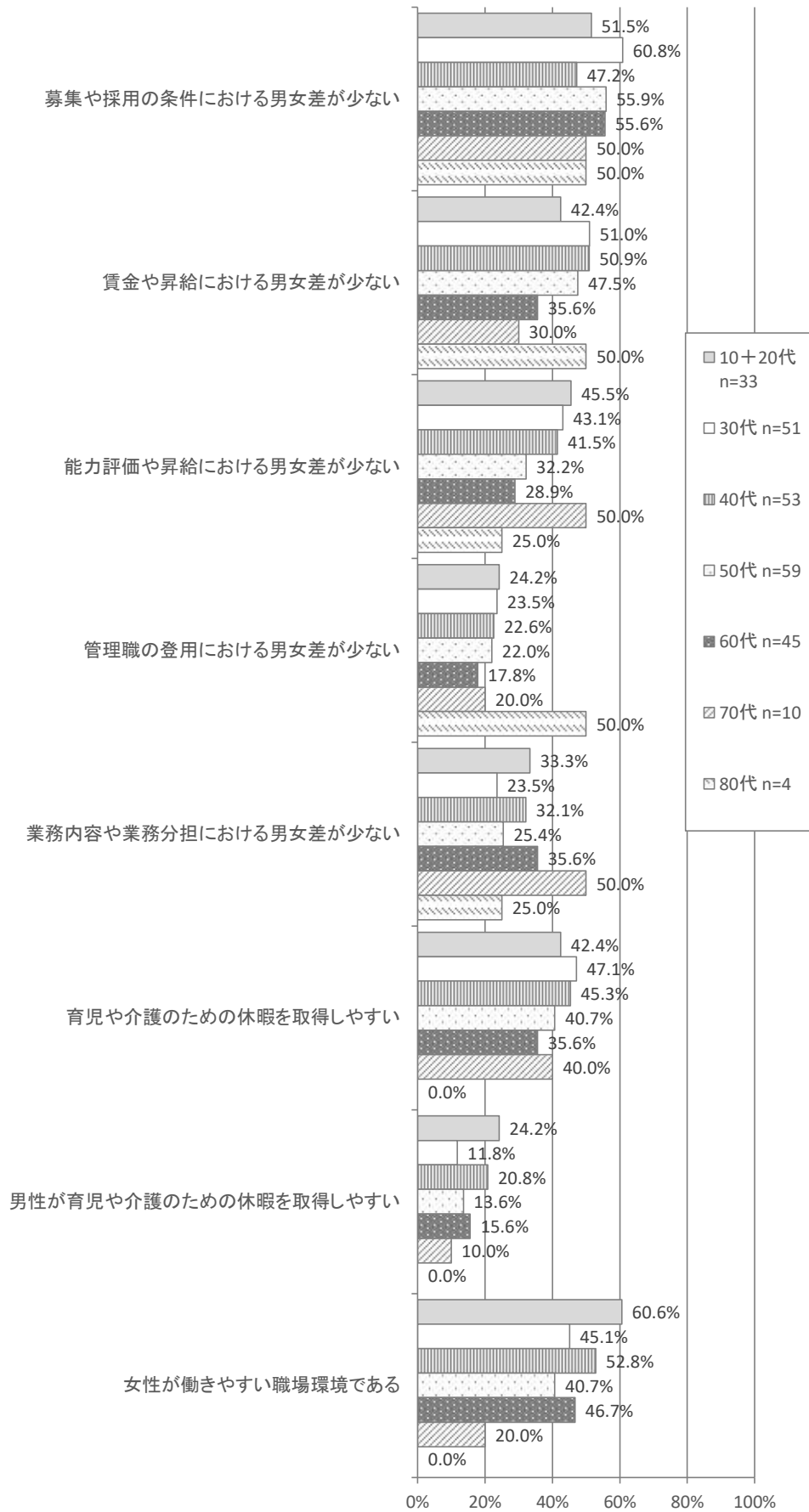
## ■全体



## ■性別



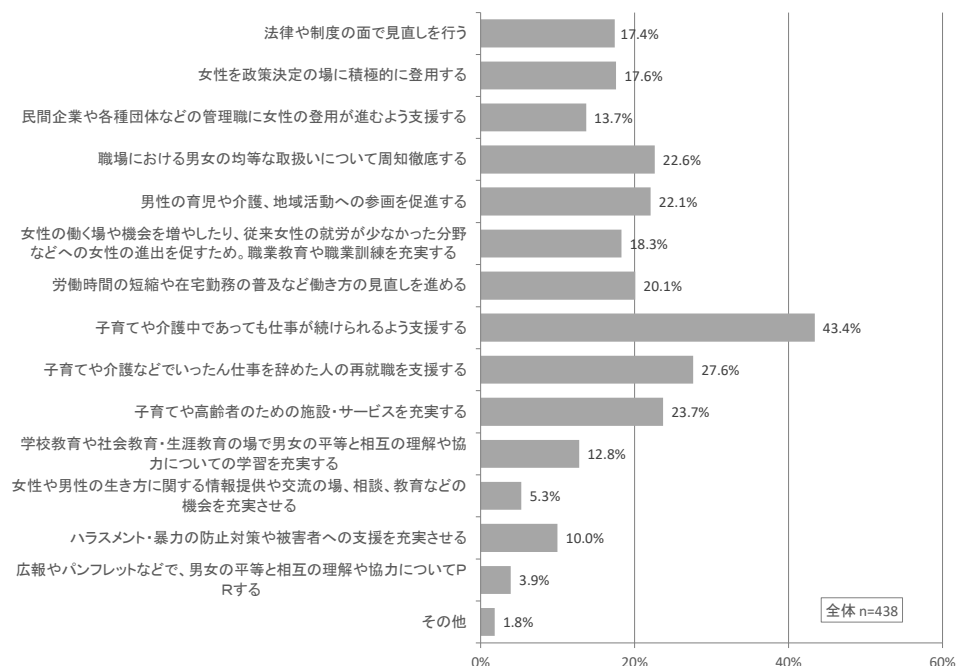
■年代別



**【問6】男女共同参画社会を実現するために、今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（〇は3つまで）**

- 全体では、「子育てや介護中に仕事が続けられるように支援する」が43.4%で最も高く、他の項目より突出して高くなっている。次いで「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が27.6%となっており、「子育てや高齢者のための施設・サービスを充実する」「職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底する」「男性の育児や介護、地域活動への参画を促進する」「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など働き方の見直しを進める」が20%を超えている。一方で、最も低いのは「広報やパンフレットなどで、男女の平等と相互の理解や協力についてPRする」が3.9%、次いで、「女性や男性の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などの機会を充実させる」が5.3%となっており、この2項目が10%未満となっている。
- 性別で見ると、男女ともに「子育てや介護中であっても仕事が続けられるように支援する」が最も高く、「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が男性で2番目、女性では3番目に高くなっている。また、「男性の育児や介護、地域活動への参画を促進する」「子育てや高齢者のための施設・サービスを充実する」は女性が10ポイント以上高くなっている。
- 年代別で見ると、全年代で「子育てや介護中であっても仕事が続けられるように支援する」が最も高くなっており、80代では「女性を政策決定の場に積極的に登用する」も同割合で最も高くなっている。また、「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が30代以上では2番目、もしくは3番目に高くなっている。その他の項目では、10代と20代を合わせた年代で「法律や制度の面で見直しを行う」、10代と20代を合わせた年代、60代、80代で「職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底する」、30代と50代で「男性の育児や介護、地域活動への参画を促進する」、40代と70代で「子育てや高齢者のための施設・サービスを充実する」がそれぞれ上位に入っている。

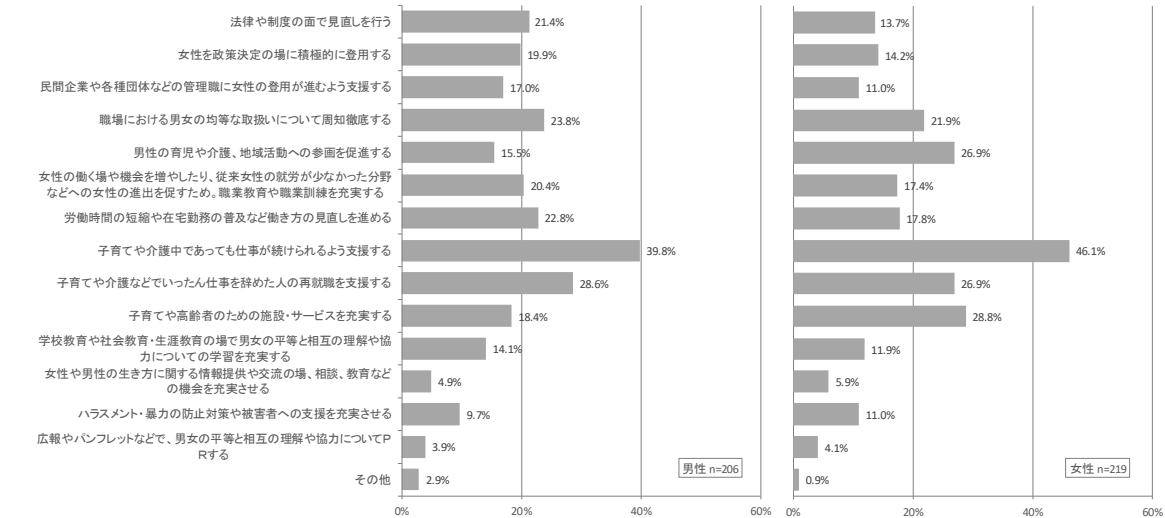
■全体



■性別

【男性】

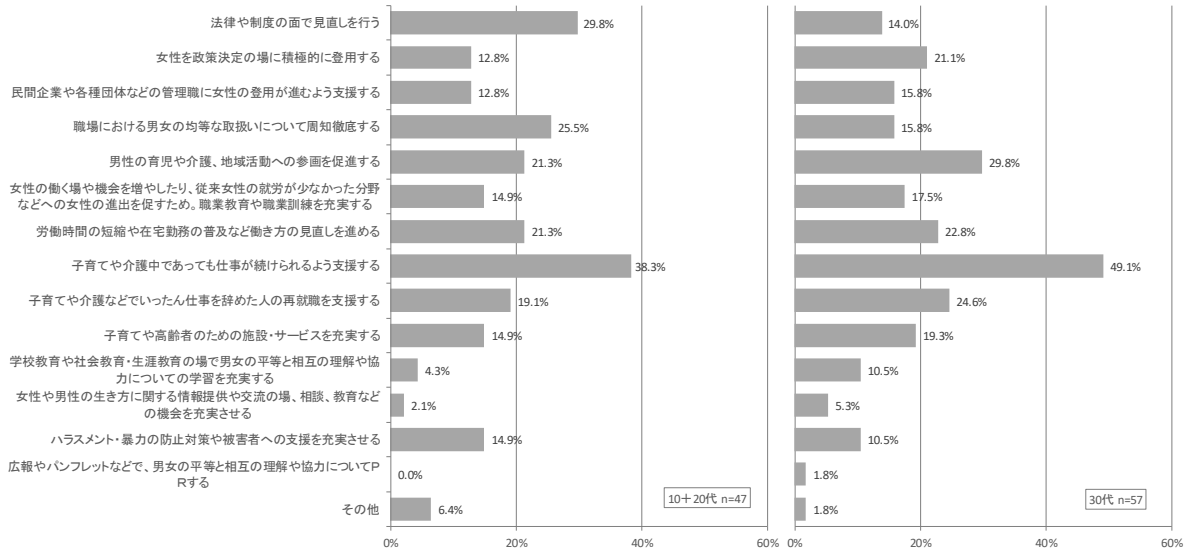
【女性】



■年代別

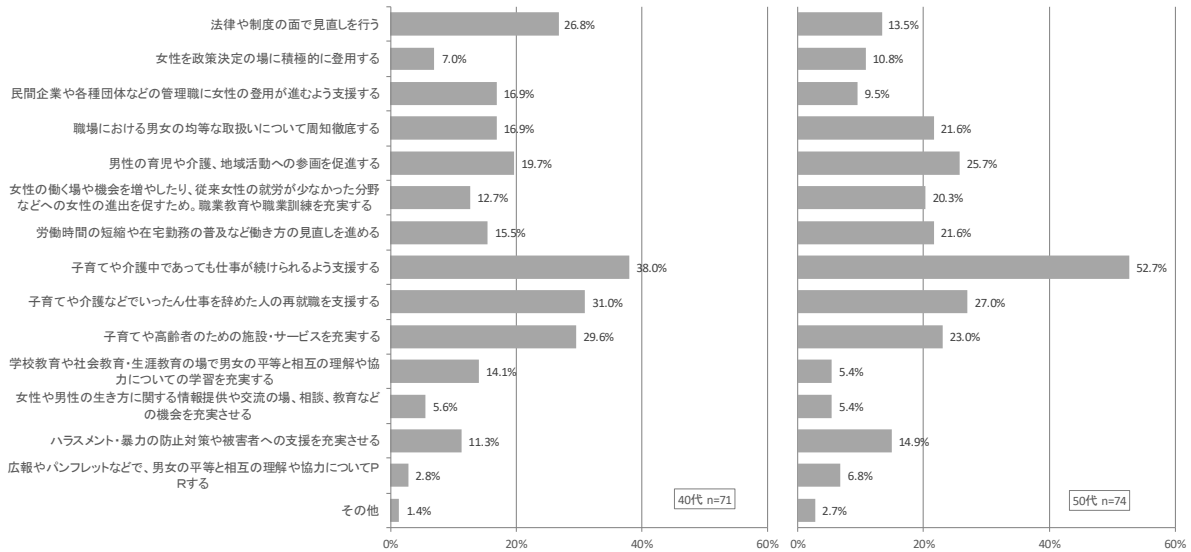
【10代+20代】

【30代】

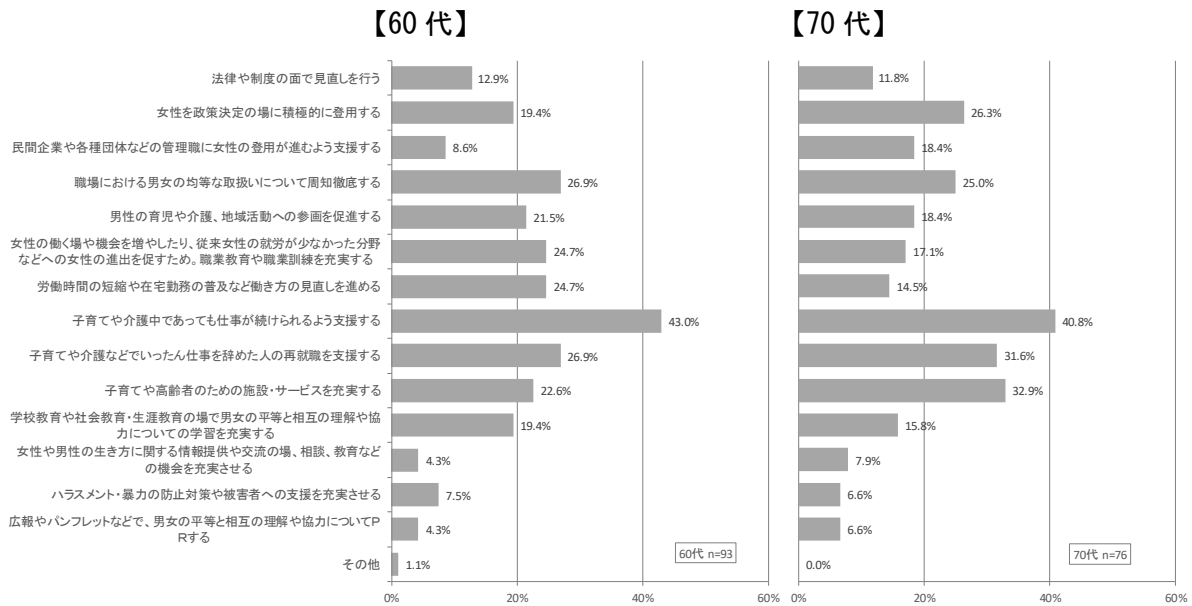


【40代】

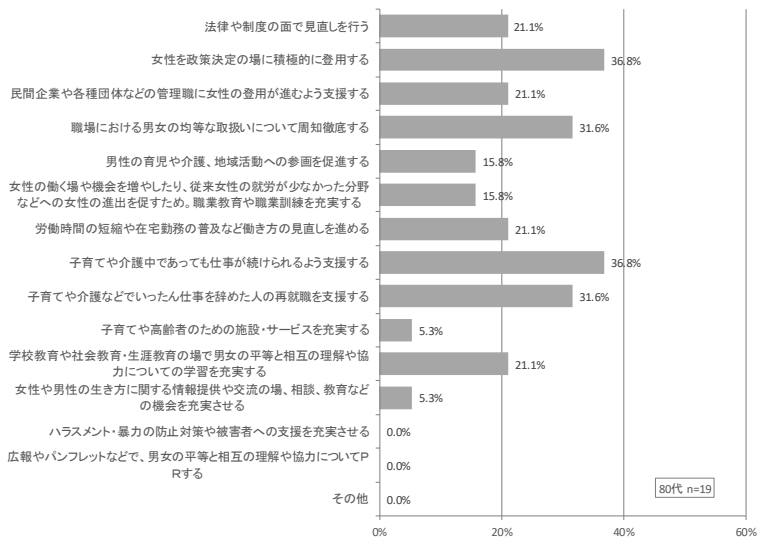
【50代】







### 【80代】



### ■その他の回答

- 中小企業の経営者の理解が進まないという。 (50代/男性/大曲)
- 生理休暇がほしいです。 (20代/女性/太田)
- とにかく公的職場です。男性の残業や休日出勤等をなくす事が大事であり、それから民間企業へと進めてもらいたい。 (60代/男性/大曲)
- 女性自身が自ら頑張る。 (40代/女性/大曲)
- 平等の基準を作る。 (30代/男性/協和)
- 結局男女関係なく仕事ができる人は上の立場になっていくし、出来ない人は何かと理由をつけて仕事が出来ないので何をやっても無駄だと思う。 (20代/男性/神岡)

## ◆ 調査結果のまとめ及び今後の方針

- 問2の各分野における男女の地位の平等については、「平等」と回答した方の割合が最も高いのは『学校教育の場』で54.3%となっているが、『学校教育の場』以外では4割以下となっており、程度を問わず、男性が優遇されていると回答している方の割合が高くなっている。また、男性が優遇されていると回答した方の割合は、男性よりも女性が高くなっており、未だ様々な分野で男性優位の習慣が残っていることが示されている。こうした状況を解消するため、男性側の意識改革や、女性目線での制度改正などが必要である。
- 問3の「男性は仕事、女性は家庭」という考え方については、「反対」や「どちらかと言えば反対」と回答した方の割合が高かったが、少ないながらも「賛成」や「どちらかと言えば賛成」と回答した方もいた。また、約3割の方が「どちらとも言えない（わからない）」と回答していた。問4の家庭での家事等の分担状況については、全体で「女性が行っている」と「女性が主」を合わせた割合が約7割となっており、依然として女性が家庭における家事等の担い手となることが示唆されている。問2の結果同様、男女で認識の違いが見られ、「女性が行っている」「女性が主」を合わせた割合は女性が高く、「男女とも同じように行っている」「どちらかの手の空いている方が行っている」を合わせた割合は男性が高くなっている。その一方で、30代と40代では「男女とも同じように行っている」「どちらかの手の空いている方が行っている」を合わせた割合が3割を超え、特に30代では48.3%と約半数が性別に関わらず家事等を行っていると回答しており、男女共同参画の意識が着実に浸透してきていることが伺える。こうした意識をさらに浸透させていくため、それぞれの家庭の状況にもよるが、家庭や職場におけるジェンダーの平等意識の定着や、男性が家事等へ取り組みやすい環境づくりの一層の促進が必要である。
- 問5の職場における男女共同参画や女性活躍に関する状況については、「管理職の登用における男女差が少ない」や「男性が育児や介護のための休暇を取得しやすい」の割合が低くなっていることから、女性管理職登用のさらなる機運の醸成や、管理職に就くことに対する女性自身の意識改革、そして、管理職となった女性が働きやすい職場環境の形成を進めるとともに、男性が育児や介護に参加することへの理解を促進し、ワーク・ライフ・バランスや女性活躍を後押ししていく必要がある。
- 問6の男女共同参画社会を実現するために力を入れていくべきことについては、「子育てや介護中に仕事が続けられるように支援する」が43.4%で最も高く、次いで、「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」「子育てや高齢者のための施設・サービスを充実する」「職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底する」「男性の育児や介護、地域活動への参画を促進する」「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など働き方の見直しを進める」の順に高く、それぞれ20%を超えている。これらの項目は全て子育てや介護、仕事に関連していることから、仕事をしながらでも子育てや介護がしやすい、いわゆるワーク・ライフ・バランス社会の形成と、そのための体制づくりが必要である。